

九州地区大学図書館協議会誌

第48号

2005

九州地区大学図書館協議会

目 次

【巻 頭 言】

新任館長てんてこ舞い	中山 仁 ...	1
------------------	----------	---

【寄 稿 論 文】

日本語電子化文章の全文検索についての試み	宗広 明則 ...	4
----------------------------	-----------	---

【図 書 館 紹 介】

九州大学理系図書館		7
-----------------	--	---

【加盟館ニュース】		10
-----------------	--	----

【図書館活動報告】		25
-----------------	--	----

【事務局報告】		35
---------------	--	----

【第56回九州地区大学図書館協議会総会記録】

平成16年度決算		46
----------------	--	----

平成17年度予算		47
----------------	--	----

【資 料】

九州地区大学図書館協議会会則		48
----------------------	--	----

九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則		49
------------------------------	--	----

九州地区大学図書館協議会入会に関する細則		50
----------------------------	--	----

九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規		54
-----------------------------	--	----

九州地区大学図書館協議会表彰規程		54
------------------------	--	----

研修会の補助に関する申合せ		59
---------------------	--	----

副幹事館の役割		61
---------------	--	----

九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について		61
---------------------------------	--	----

加盟館一覧		63
-------------	--	----

役員館一覧		67
-------------	--	----

当番館一覧		71
-------------	--	----

新任館長てんてこ舞い

中山 仁

本年4月に図書館長を仰せつかって半年余り。図書館長は文系の先生か、理系でも情報関係の先生が務められるものと思っていただけに、ほとんど一から勉強しなければならず、あっという間に過ぎたこの数ヶ月であった。

就任後間もなくの4月下旬に、九州地区大学図書館協議会総会の当番校として議長を務めさせていただいた時も、事務方に用意していただいたシナリオに沿って議事を進行するだけで精一杯、今思い返しても冷や汗が流れる。何とか当番校としての責任を果たすことができたのも、参加された皆様と本学図書館員諸氏のお力添えのお陰で、改めてお礼申し上げたい。6月末の国立大学図書館協会総会（名古屋）に出席し、マネジメント・セミナーも受講して、大学図書館の役割について多少なりと認識を深めた。以後、本学図書館の当面の課題に取り組んでいる日々であるが、そこから感じた今日の大学図書館の役割と課題について私見をつづり、巻頭言に代えさせていただくことをお許し願いたい。

1. 大学図書館としての役割の第一は、やはり教育と研究に対する貢献であろう。その中でもまずは、「電子ジャーナル (EJ)」経費に対する対応から始めたい。

私の専門は薬学だが、生命科学の進歩は日進月歩ならぬ秒進分歩(?)の感がある。それだけにEJの有効性と利便性は日頃実感しているところである。しかし、本学のような中規模の大学において、年間億の桁に及ぶEJ負担額の捻出策は頭の痛い問題である。このような費用は大学の基盤的投資として、大学共通経費から全額賄うべきとの考えもあるが、各部局の利用度に違いがあり、数年に亘る議論を経た現在、本学では経費の半分を利用度に応じて部局が負担する方式で行っている。

出版社の設定額が外国のユーザーに比して高く設定されているのではないかといった疑念をはじめ、価格設定がpublisher-dominateで進ん

でいるとのやるせない思いはいづれの大学も同様で、先の九州地区における大学図書館協議会総会や国立大学図書館協会総会でも熱い議論が交わされた。

この課題解決の方途である出版社との交渉の主導権を大学図書館側が持つようになるためにも、(1)大学図書館協会の一致団結、(2)機関リポジトリをできるだけ早期に確立する、の2つを成し遂げねばならない。前途は容易ではないが、これを看過していると我々が額に汗して生み出した資金を外国出版社に吸い取られてしまうことになる。現代版「アヘン戦争」ともいえよう。

2. 教育用図書の選書はどのように行うのが実効的か。

示唆に富む話を聞いた。図書館員としての資格を取った学生さんが、就職に際して大学図書館と県の図書館のどちらかを選ぶ場面に遭遇した。指導教員は大学図書館を選ぶだろうなあと思っていたが、予想に反して当の学生さんは県の図書館を選んだ。理由を聞いたところ、「大学図書館では、選書のほとんどは教員が行っている。それに比べ、県の図書館では、自分が選書に積極的に関わることができる。大げさにいえば、自分たち館員の力で蔵書全体の方針、図書館のカラーが定まるのです。図書館員として、これほどやりがいのある仕事はないではありませんか。」

当館でも教育用図書の選書方法は、かつてその大部分が各部局に下ろされ、教員がこれに当たってきた。この方法の欠点として、(1)専門分野の教員がいない分野、領域の図書が欠けてしまう、(2)図書館員に選書の力がつかなくなる、などが危惧される。このジレンマを解く名案はないだろうか?

そこで改善の一環として、当館に不足する領域の図書や叢書などを図書館員が中心となって選書する「重点図書」選定が昨年からスタート

した。その額はまだ大きなものではないが、このような取り組みが着実に根を下ろすことを期待したい。

3. 本学の附属図書館としての特色は何か。

法人化に伴い、各大学の独自性が一層求められる今日、この課題は重要である。幸い当館では、数年前から学術資料調査研究推進室が設けられ、(1)熊本大学が所蔵する古文書（寄託の「永青文庫」や「阿蘇家文書」など）の分析と研究、(2)ラフカディオ・ハーン・コレクションのデータベース化、(3)水俣病関係学術資料の整理収集、について継続的な活動を行っている。

(1) 古文書については毎年、文化の日近くの大学祭に呼応して本学が所蔵する貴重資料展を開催しているが、本年は『古今和歌集』が編まれて1100年に当たることから、文学部の森教授、ならびに県立大・鈴木助教授、尚綱大・久多見助教授のお世話で11月4日－6日の3日間、講演とシンポジウム、研究発表などからなる「古今和歌集1100年熊本フォーラム」が開催されることになった。本図書館の第22回貴重資料展もその一環として永青文庫所蔵の古今集関連の古文書を展示し、多くの市民が足を運ばれた。また来年度は、文科科学省の支援を受け通算18年に及んだ重文「阿蘇家文書」全34巻の修復が本年度をもって完了することから、県立美術館との共催で、そのお披露目展を開催する計画である。

(2) ハーンについても毎年、資料の展示や講演会などを開いているが、昨年はハーンの没後100年を記念したシンポジウムが開催された。その内容を取り込み、これに学内の各部局10人の先生方に寄稿を仰いだものを教育学部・西川教授が編まれた『ラフカディオ・ハーン：近代化と異文化理解の諸相』（九州大学出版会）が7月末に上梓された。その刊行も記念し、9月にはハーンの孫の一人である稲垣明男氏（ハーンの次男・巖氏のご子息）に初めてご来熊いただき、満員の聴衆を集めた五高記念館内の復原教室で、お父様の思い出に裏打ちされたハーン像などを話していただいた。

(3) 来年2006年は水俣病公式認定から50年。深い関わりをもつ本学として、資料の整備と公開に向けた準備を進めている。

北海道出身の私には殊の外、これらの内容が熊本の歴史・文化と風土をよく反映しており、一層力を入れて取り組むべきものであるとの感を強くする。

4. 狭隘化の問題。

資料の保存が一つの使命である図書館にとって、溜まる一方の図書・雑誌とスペースの確保という二律背反の宿命にどう対処するかはこの館にも共通する頭の痛い課題である。

資料としての寿命が比較的短い自然科学系は、資金さえ許せば、EJ化によってスペースの問題はかなりの程度解消できそうな雰囲気はある。しかし、「取っておきたい」という研究者の本性は中々消せるものではなく、ましてや典籍・文書に限らず、書籍が知識の源である文系の先生、研究者にとって廃棄などということは考えられない暴挙であろう。

10年余の念願が叶って増築が始まる本館にとっても、20%程度の拡張では根本的な解決にはならず、どこまで続くこの道ぞである。

5. サービス度の把握と向上をめざして。

情報の集積場であり、知の宝庫である図書館も、利用者にとって満足してもらわねば宝の持ち腐れである。この点からも利用者の満足度を把握するアンケート調査は、日頃の目安箱とともに大切なモニターシステムであり、またそれも他館との比較といった客観化によってより大きな意味をもつと考える。

本年度は久しぶりに利用者アンケートを実施する予定であるが、4年前と比べて利用者はどのような評価と意見を出してくれるか、それをどう活かしていくかに我々の力が問われている。

思いつくままに書き流した文章をお目にかけるのは忸怩たるものがあるが、こうして半年余りを振り返ってみても館長としての責務の重さを改めて感じる。

インターネットで諸々の情報が飛び交う今日、情報の場として、また知の宝庫として、大学図書館の果たすべき役割が改めて問われており、

目の前の課題のみならず、中・長期的展望に立った取り組みが必要であると感じるこの頃である。

なかやま ひとし
(熊本大学附属図書館長)

日本語電子化文章の全文検索についての試み

宗 広 明 則

1. はじめに

資料電子化の普及とネットワーク化の整備が急速に進む社会環境において電子化資料の収集・保存形態は、これからも大きく変化すると思われる。

個人のパソコン内に収集、保存された各種形式の電子化文章（以下「文章」という。）をフリーソフトウェアの活用によって全文検索の構築を試みることにする。

2. システムの概要

2-1 ハードウェア：

本システムに使用したパーソナルコンピュータは、デスクトップ型、OS：Windows XP Professional、CPU：Pentium 4；2 GHz、メモリー：768MB、ハードディスク容量：40GBである。

webサーバ機能は使用しないこととする。

2-2 ソフトウェア：

すべてフリーソフトウェアでありシステムの構築には、次のソフトウェアが必要である。

- 1) Namazu：インデックスの作成と検索ファイルを作成するプログラムから構成される。あらかじめ、文章の索引ファイル（インデックス）を作成し、大量の文章の中から単語を検索する機能である。国立国会図書館を始め多くの機関で採用されている。
- 2) kakasi：漢字かなまじり文をひらがな文やローマ字文に変換することを目的として作成した（分かち書き）プログラムである。例えば、「九州地区大学図書館協議会」をkakasiによる分かち書き処理結果は、「協議会」、「九」、「九州地区」、「図」、「大学図書館」となった。
- 3) Active Perl：CGIを実現するためのプログラミング言語で、Windows版が必要である。

4) search-s-for-Namazu：GUI設定方式でNamazuと連携しつつインデックスの作成と検索画面処理を行なう。

5) xpdf：PDFファイル検索用プラグインソフトである。他、それぞれの文書のインデックス作成と検索表示用には、該当する文章作成用アプリケーションソフトが必要である。全文検索の概要、各ソフトウェアのインストール等については、<http://www.namazu.org/>を参考とした。

3. 素材に使用した文章

主な素材は、西日本工業大学20年史である。体裁は、B5版398p、発行は1987年である。目次単位をOCRによったテキストデータを基にPDF、Word形式にそれぞれ変換したものである。他Excelとパワーポイント、HTMLなどパソコン内の通常文章類を素材として利用する。

4. インデックスの作成

Namazuのインデックスシステムは、文章・検索共フォルダー単位で処理する為に予めそれぞれフォルダーを作成することとする。

本学20年史のPDF文章は、56ファイル有りそれらを「文章p」の中に集約する。次に、search-s-for-Namazuにて「文章p」のファイルを読み込んで「index P」へインデックスファイルを作成する。各フォルダーの置き場所は、独自に設定できるので図-1の様に暫定的に設定した。



図-1 フォルダー管理画面

図-2は、このPDFファイルをNamazuとkakasiの分かち書き処理を行なった、インデックス作成後の処理画面である。読み込んだ文書は56ファイル、キーワード作成数は、26,826語、処理時間は27秒であった。インデックス作成に要する時間、読み込むファイル容量等は、パソコンの能力に依存する。



図-2 PDFインデックス作成後の処理画面

同様にテキスト文章のインデックスは、データを「文章t」へインデックスファイルは、「index T」へ集約した。同様に、Wordデータは「文章d」へインデックスファイルは「index D」とした。前回同様インデックス化は可能である。

5. 検索機能について

「search-s-for-Namazu検索機能の主な特徴」は、次の通りである。

- ・キーワードを基に高速な検索が可能。
- ・複数の単語をAND、OR、NOT条件を組み合わせた検索が可能。
- ・スコアを基に並びかえた結果の出力が可能。

Namazuのインデックス化とsearch-s-for-Namazuの検索機能による前方一致とAND検索条件を組み合わせた検索画面が図-3である。

検索式(D)：を「図書館」「福岡*」とした部分検索結果は、図書館：15、福岡*：18のヒット数であり、AND検索結果は、8個であった。

検索結果を表示する各文章は、アプリケーションまたはインターネットエクスプローラとの連動も可能である。

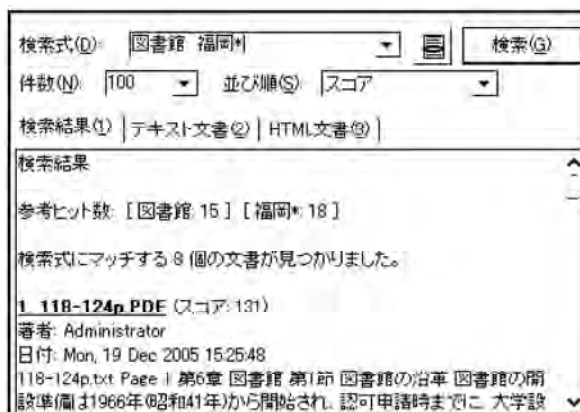


図-3 search-s-for Namazuによる検索結果画面

6. 新たな追加文章

新たに「文章p」の中に、PDF形式を3ファイル、Word形式を2ファイル、Excel形式を2ファイル、パワーポイント形式を1ファイル、HTML形式を1ファイル、テキスト形式を1ファイル、計10ファイル数の文章を追加して再度インデックス作成を行なった。処理結果は、図-4の通り既存のファイルが更新され、追加した文書数と追加キーワード数が作成できた。

今回の試みの結果、電子化された各日本語文章類は、Namazuのシステムによって全文検索が可能でインデックスが作成できた。

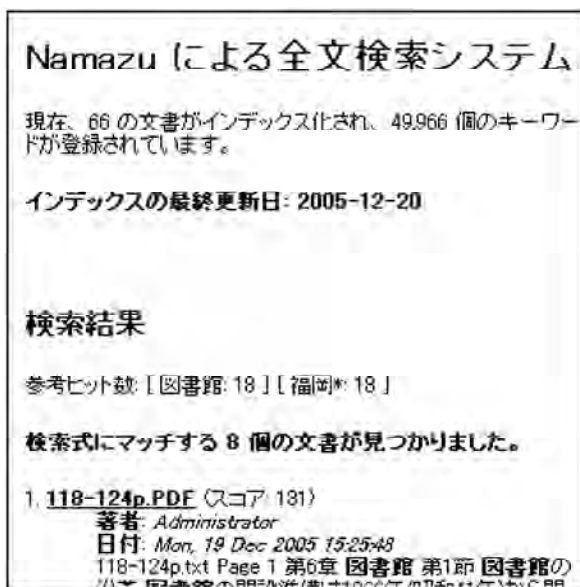


図-4 追加文章処理後の検索結果画面

7. あとがき

個人レベルのパソコンを使って日本語電子化文章を大量かつ高速に全文検索システムを構築し活用することが可能となった。

[参照文献]

- ・馬場肇、日本語全文検索システムの構築と活用、ソフトバンク、1998。
- ・西村めぐみ、全文検索・データベースWebの作り方、ソシム社、2000。
- ・西日本工業大学20年史、1987。
- ・宗広明則、パソコンによる図書館資料のデジタル化についての試み、私立大学図書館協会会報、Vol.113、2000、p.103-112。

[参照Webサイト]

- ・Namazu Project <<http://www.namazu.org/>>
- ・Kakasi <<http://kakasi.namazu.org/>>
- ・search-s-for-Namazu <<http://www.syam.net/library/search-s/>>

むねひろ あきのり
(西日本工業大学図書館)

図 書 館 紹 介

【九州大学理系図書館】



図 1 外観（図書館前広場から）

九州大学理系図書館（愛称：キューリット）は、2005年10月の九州大学伊都キャンパスの誕生とともに開館しました。九州大学附属図書館の、5番目の分館です。福岡市の西部、糸島半島の中ほどに位置し、博多湾を一望できる高台に建っています。

理系図書館は工学系部局の移転に合わせて整備され、地下1階、地上1階の建物で10月3日サービスを開始しました。九州大学のキャンパス移転の進行に従い、将来は2期工事として地上2階・3階部分が増築され、工学系部局の他、理学・数理学系、情報系、農学系をサービス対象とする総合的な理工学・農学図書館として完成します。

また、情報基盤センターの建物と一体的な施設としても整備され、同センターとの緊密な連携により、本学における先端的な電子図書館の中枢として機能することが期待されています。

■理系図書館開館までの経緯

新図書館計画は、本学の新たなキャンパスへの統合移転計画や、国立大学法人化などの図書館を取り巻く環境の変化の中で、附属図書館全体の将来構想の中の一プロジェクトとして、計画をすすめてきました。平成13年度より具体的な計画策定等の作業にはいり、大学全体の移転計画などの状況の変化に応じて軌道修正しながら開館にこぎつけました。主な道のりを以下に紹介いたします。

[平成13年度] 新図書館検討WG（図書館職員による）の設置、理系図書館検討専門部会（附属図書館の将来構想に関する検討委員会のもとに。理系部局教員による）の設置

[平成14年度] 新図書館推進室（図書館職員で構成）の設置、「九州大学附属図書館将来構想」「同移転計画」の策定、「理系図書館基本計画」の検討・策定

[平成15年度] 着工、「新図書館サービス計画」の策定、移転に伴う各種作業マニュアルの作成、工学系移転部門への調査・調整

[平成16年度] 6月竣工、「理系図書館資料配架計画」、「理系図書館サービス・業務運用計画」の策定、名称の公募

[平成17年度] 家具等の設備の導入、具体的な運用手順の策定、資料移転作業とデータ整備作業の実施、開館

■施設概要

理系図書館は、工学系地区の東側、伊都キャンパスのほぼ中央に位置しています。キャンパス内の緑地・生態系をネットワークするグリーンコリドーと歩行者の主動線となるキャンパスモールが交差する地点に建てられ、建物の前面に人々の憩いの場となる図書館前広場が整備される予定です。

入館ゲートを入ったところをエントランスプラザとし、2期工事完成後には、3層吹き抜け、図書館前広場側を一面ガラス張りとして、広場との連続感を持たせたダイナミックな共有空間になります。

利用者のアプローチ階である1階を主に利用者ゾーンとし、地階を書庫等を配置した管理ゾーンとする階層構成をとっています。1階は、福岡ドーム等の市街地が一望できる東側に閲覧席ゾーン、南側にパソコン等を使用できる閲覧席、北側に事務室や複写センター等の比較的クローズドなスペース、西側のエントランスプラザを中心とした空間に情報サロンや軽読書スペースを配置してロビーや図書館前広場と一体化するオープンスペースとしました。中央には開架書架が設置され、直射日光を避けるとともに、

アクセスしやすい環境を作っています。管理部門が主となる地階には、80万冊収容できる自動書庫のスペースが確保されており、第1期として、40万冊収容の自動書庫が平成18年1月末に完成します。



図2 閲覧席より市街地を望む

■場としての図書館づくり

理系図書館では、研究室にいながらにして充実したサービスが受けられる電子図書館の実現をコンセプトのひとつにに掲げていますが、場としての図書館作りも重要な要素です。

家具等の設備計画にあたっては、滞在型図書館としての快適なアメニティ空間、利用者の多様なニーズに応える多様なスペースの提供を実現するため、下図のような空間構成計画をたて、それを元に、今回開館する部分の家具の配置、デザインコンセプトを決めました。

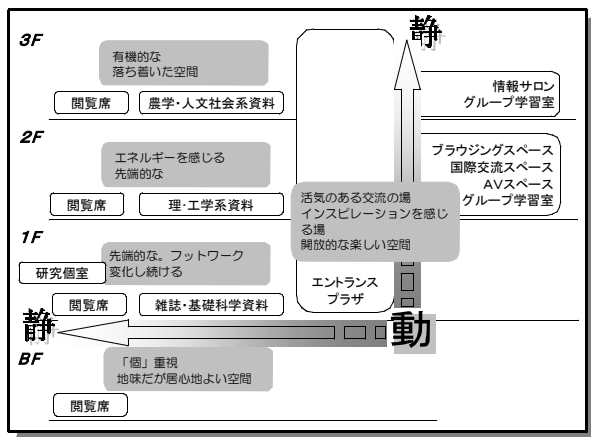


図3 空間構成とコンセプト

静の空間としての閲覧室は、シンプルかつ機能性を重視した書架、閲覧机・椅子を配しました。集中して学習できる環境を保证するため、パソコンが使用できるエリアを限定しています。また、書架にはセンサー式の書架照明、閲覧席にも個別照明を設け、省エネルギーにも配慮し

ています。

動の空間としてのエントランスプラザは、学生同士、学生と教員、地域と大学などをつなぐ場でありたいと願い、Q-Bridgeと名づけました。交流の場、展示スペース、情報交換の場としての機能を持たせるため、ホワイトボードや展示ケースなどを設置しています。今後さらにロビー部分も含め、イベントや展示会など、地域にも開放できるようなスペースにしていきたいと考えています。

AVコーナー、検索コーナーなど、将来的に2、3階に設置される予定のスペースも、今回は1階に仮設コーナーを設けています。狭い場所であるため、できるだけオープンな空間にして、気軽に利用できるよう配慮しています。



図4 完成時のエントランスプラザ予想図



図5 : 1階閲覧室 シャープに



図6 地階閲覧席 キャレルを中心に



図7 Q-Bridge

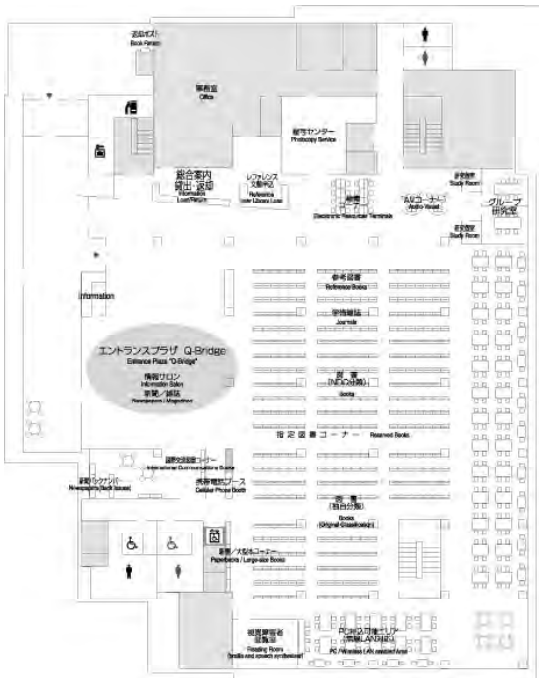


図8 1階平面図

■概要

- 延べ面積
現在：約7,000㎡
完成時：約13,500㎡
- 収蔵可能冊数
現在：約70万冊（うち自動書庫40万冊）
完成時：約130万冊（同80万冊）
- 閲覧座席数
現在：256席+PC40席
完成時：約780席
- 蔵書冊数
工学系移転完了時（H18.10）：約40万冊
- サービス対象者数
工学系移転完了時（H18.10）：
約4,300人
完成時（理農等移転後）：約7,000人

【開館時間】

平日 9:00～20:00
土曜日 10:00～18:00

【休館日】

日祝日、8月中旬の一定期間、年末・年始、毎月第一水曜日

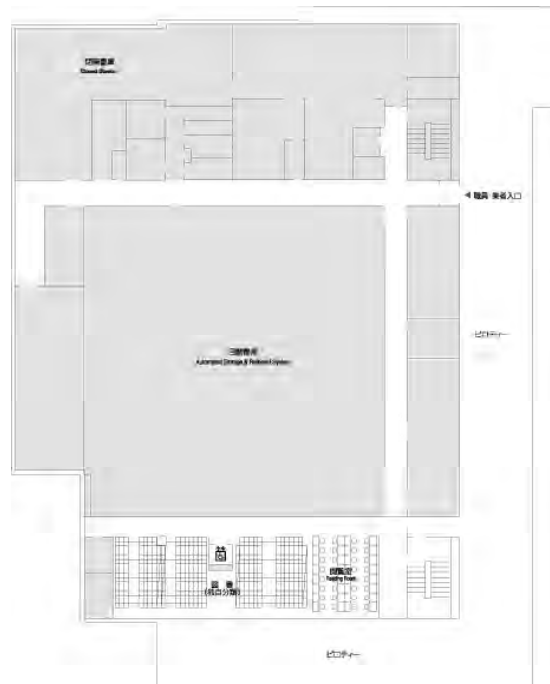


図9 地階平面図

加盟館ニュース（五十音順）

【大分大学附属図書館】

読み聞かせ会の実施

附属図書館（本館）児童図書コーナーで読み聞かせ会を行っています。今年度は昨年までの本学学生による読み聞かせに代わり、大学近隣に在住の主婦グループのボランティアの方々による読み聞かせ会となりました。ボランティアの方々の持参された大型絵本の読み聞かせ、ボードに手作りのパーツを貼っていきながらのお話や、エプロンを使っての語りかけなどバリエーションに富んだ読み聞かせで、参加した子どもたちも思わず話に引き込まれ楽しそうに聞いています。読み聞かせ会終了後には、興味を持った保護者の方たちから、次回実施の問い合わせやボランティアの方たちの活動についての問い合わせがあったり、図書館の学外者利用登録を行い、絵本や児童書をたくさん借りて帰られる人も多いようです。

実施計画は次のとおりです。いずれも土曜日の午後2時から3時までです。

第1回 2005年7月16日

第2回 2005年9月17日

第3回 2005年10月15日

第4回 2005年11月19日

第5回 2006年1月28日

第6回 2006年2月18日

第7回 2006年3月18日

廃棄図書・雑誌の無償配布

11月6日(日)に開催された大学開放イベントの図書館行事の一つとして、図書・雑誌の無償配布を行いました。今後利用されないだろうと判断され廃棄手続きの済んだ図書は図書館玄関前で配布し、雑誌は見本として一部を玄関前に展示し、2階島の写真展横で現物を配布しました。今回は廃棄図書が1,145冊あり、その内の294冊を10月中に1冊100円の有償で売却し、残った851冊を無償配布しましたが、当日はあいにくの雨ということもあり、実際に持ち帰られたのは302冊でした。廃棄雑誌は、22タイトル、延べ403冊で、持ち帰られたのは221冊でした。

【沖縄国際大学図書館】

1. 私立大学図書館協会

2005年度西地区部会総会開催

東海地区49校、京都地区41校、阪神地区62校、中国・四国地区40校、九州地区48校、合計240校が加盟する私立大学図書館協会の2005年度西地区部会総会が、2005（平成17）年6月17日（金）、本学で開催された。15年振りに本学が総会当番校となったもので、75大学107名の参加があった。当日は、沖縄地方では100年振りの記録となる豪雨で、参加者にご迷惑をかけ総会開始に当たり心配されたが、予定通り開催できたことに感謝するものである。

総会は稲福日出夫図書館長の挨拶に始まり、渡久地朝明理事長・学長による歓迎の挨拶、部会長校久留米大学附属図書館の西土純一館長、会長校龍谷大学の松井賢一学術情報センター長による挨拶があった後、稲福館長が議長となり

議事を進めた。

図書館長だけによる館長懇話会は、部会長校の久留米大学附属図書館の西土館長が議長になり「大学図書館の地域開放」のテーマで各図書館での取り組みなどが話合われた。

昼食懇親会では、本学学生の琉球芸能文学研究会による踊りも披露され盛況だった。

午後の講演会では、琉球大学の高良倉吉教授による、「首里城復元プロジェクトー沖縄の文化戦略ー」と、本学の総合文化学部山口真也助教授の、「大学図書館と個人情報・プライバシー保護ー貸出し記録の取り扱いを中心にー」の題で講演が行われた。

図書館見学とキャンパス見学も昼食を挟んで行われた。また、総会行事と平行して業者（3社）による図書館情報システム関係の展示会も開催された。

2. 図書館情報サービスシステムの構築

電子図書館機能充実の一環として図書館情報サービスシステムの構築を進めている。

本システムは大きく分けて以下の3つの機能から構成される。

(1) 利用者のプロフィールを考慮した連想検索OPAC

本学所蔵の図書でISBNが付与されている資料を、従来のキーワードではなく、自然文で検索することが可能な連想検索機能を持ったOPACを構築する。目次や内容の要旨も検索対象になっている。検索結果には貸出履歴をもとに、学科毎のニーズの違いも反映される。具体的には、例えば「就職に役立つ資格って何だろう？」と入力すると、入力した利用者の所属する学科で人気のある資格を取り扱った本が上位に出てくる。気にいった資料と内容的に似た資料という条件で検索することも可能。これにより、探したい情報に関する前提知識が少ない利用者でも、検索漏れが少なく、目的の情報にたどり着くことが可能になる。

【鹿児島大学附属図書館】

1. 鹿児島県歴史資料センター黎明館と連携協力に関する協定を締結

鹿児島大学附属図書館と鹿児島県歴史資料センター黎明館は、地域における文化、教育及び学術の発展を促進すること目的として、平成17年8月1日付けで連携協力に関する協定を締結した。

この協定締結により、今後、本学附属図書館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との間で連携協力協議会を設置し、共同事業の実施、学術情報及び資料の交換、展示会、講演会等について相互に協力していくこととなる。最初の連携事業としては、鹿児島県歴史資料センター黎明館が、平成14-16年の3ヵ年計画で実施した「奄美群島歴史資料確認調査」の資料調査カードを基礎として、奄美群島古文書群の目録データベースの構築を計画している。

2. 夏休み子供見学デー開催

中央省庁の「子ども霞ヶ関見学デー」に呼応

(2) 学術機関リポジトリ

本学で生産された電子的な知的生産物を収集し、蓄積し、発信するためのインターネット上の保存書庫を構築する。収集されたデータは国立情報学研究所の学術ポータルサイトを通じ、インターネット上から検索ができるようになる。

(3) 学内刊行物の検索

電子化されていない学内で刊行された研究紀要のメタデータから検索できるようにし、さらに連想検索機能を実装する。

3. ILL文献複写等料金相殺サービス利用開始

ILL文献複写等料金相殺サービスの利用を、平成17年4月から開始した。これにより料金相殺サービス制度に加盟している図書館間で文献複写等を依頼した場合の利用者は、文献複写料金等の支払いで銀行や郵便局まで行くことなく学内の会計課でできるようになった。利用者の利便性を優先に考え会計課と調整を重ねた結果実施できた。

して、昨年に続き第2回目の「夏休み子供見学デー：探検！発見！大学の図書館と博物館」を8月19日(金)に開催し、小学生と保護者を単位とする11グループ37名が参加した。

今回は、子供たちと保護者が図書館や博物館をいっしょにみて歩くことによりふれあいを深め、夏休みの体験学習の機会にしようという企画で、附属図書館と総合研究博物館との共催となった。

附属図書館では、学術情報の蓄積された「書庫」など館内を見学するとともに、スタンプラリーに参加して情報調べの実際を体験した。また、デジタル化された古地図や古文書などの超高精細画像を紹介し、図書館業務に重要な役割をもつ最新情報技術のデモンストレーションを行った。

総合研究博物館では、大木公彦館長の案内により、常設展示室に展示されている鹿児島大学の前身である鹿児島高等農林学校や第七高等学校で使われた機器やノート、および日本一の産

金量を誇る鹿児島県の金鉱石や黒曜石、アンモナイトの化石を見学した。

3. 「平成17年度目録システム地域講習会（図書コース）」開催

国立情報学研究所との共催により、8月24日から26日までの3日間、平成17年度目録システム地域講習会（図書コース）を学術情報基盤センターにおいて開催した。

【九州大谷短期大学図書館】

学生モニター制度の設置

平成15年11月に「学生モニター」を設置しました。モニター制度とは、定期的に利用上不便なことの指摘や企画の提案を図書館に対して提出してもらう制度です。その背景には、読書離れで言葉を知らない、だから人と議論ができない、論文が書けないといった学生が増えています。学生全入時代、学生の教養教育について、図書館側からも何か協力できないだろうか。情報源としての図書館の整備は勿論のこと、学生に対する図書館利用教育（情報の探索法、整理法、表現法）の実施、読書推進活動など、学生へ積極的に働きかけていきたい。そのため、学生が何を必要としているのか、学生の興味・動向や、サービス、企画について、具体的な意見や評価を受ける場を設けたいと考えました。

モニター会員は、本学学生から募集しています。現在は、月1回の座談会に参加してもらい、図書館で実施するアンケート、図書館の利用に関する調査点検（サービスなど）、蔵書の検討、企画立案（展示、図書館誌、上映会など）、図書館ガイダンス（図書館利用教育）といった項目について活動してもらっています。学生による季節にあった本などの展示の企画は、展示後すぐ貸出されるなど図書館の活性化にもつながっています。

講習会は、鹿児島大学附属図書館職員5名に加え、国立情報学研究所、熊本大学、宮崎大学からも講師を迎え、NACSIS-CATについての専門的知識や技術の習得を目的として行われた。九州各県の大学図書館及び研究所等から参加した16名の受講生は、熱心に質問したり演習に取り組んだりして、NACSIS-CATについて習得した知識を今後の実務に活かしていきたいと抱負を語っていた。

展示の紹介

〈冬 展〉



〈出逢い展〉



【九州工業大学附属図書館】



このデータベースは、当史料室に保管する史料が登録されています。
現在は庶務、教務事項を中心に日々追加、登録作業を進めております。

- 検索MENU - [🔍 キーワード検索](#) [🔍 詳細検索](#) [? ヘルプ](#)

[史料データベース利用の手引き\(PDF\)](#)



史料室所蔵資料目録 / キーワード検索

[◀ 検索MENUへ戻る](#)

【文書の検索】

キーワード:



検索



リセット



ヘルプ

※複数のキーワードで検索をおこなうことができます。下記の追加行へ検索条件を入力してください。

[追加行](#)

ページあたりの表示件数: 件

最大取得件数 (0は全件): 件

附属図書館史料室所蔵資料目録 / キーワード検索結果

[◀ キーワード検索画面へ戻る](#)

該当データ 45 件中 1-20 件までを表示

検索式: '(九州大学)'



最前



前



次



最後

年度・分冊等

資料ID	データベース名	資料名	年度・分冊等
<input type="checkbox"/> 871	100年史資料	九州大学大学史料室所蔵史料目録	
<input type="checkbox"/> 873	100年史資料	九州大学史 写真集	1911-1986
<input type="checkbox"/> 875	100年史資料	九州大学七十五年史	史料編 上巻
<input type="checkbox"/> 876	100年史資料	九州大学七十五年史	史料編 下巻
<input type="checkbox"/> 889	100年史資料	九大風雪記	
<input type="checkbox"/> 890	100年史資料	九大風雪記	
<input type="checkbox"/> 891	100年史資料	九州大学大学史料室所蔵写真目録	九州帝国大学時代
<input type="checkbox"/> 1048	100年史資料	九州大学大学史料叢書	1,3~12 (計11冊)
<input type="checkbox"/> 1050	100年史資料	九州大学史料室 KYUSHU UNIVERSITY ARCHIVES	
<input type="checkbox"/> 1052	100年史資料	九州大学大学史料室ニュース	第1号~第23号 (計23冊)
<input type="checkbox"/> 1140	100年史資料	[九州大学]九州大学五十年史学術史	上巻 医学部・工学部・農学部
<input type="checkbox"/> 2828	100年史資料	九州大学入学試験関係資料	昭和63年度
<input type="checkbox"/> 2829	100年史資料	九州大学入学試験関係資料	平成元年度
<input type="checkbox"/> 2830	100年史資料	九州大学入学試験関係資料	平成2年度
<input type="checkbox"/> 2831	100年史資料	九州大学入学試験関係資料	平成8年度
<input type="checkbox"/> 2832	100年史資料	九州大学入学試験関係資料	平成9年度

100年史資料




資料ID	871	重複本
資料名	九州大学大学史料室所蔵史料目録	
年度・分冊等		
編者(著者)	九州大学大学史料室編	
保管責任課		
保管場所	史料室	
資料期間	H 12/07/31~	
主な内容		
資料媒体	本	
資料分類	C-01 K-	
図書分類	377.2 K-100	図書ID 1052639
寄贈年月日		
公開可否		
注記	九州大学大学史料室 2000	

史料室所蔵資料目録 / 詳細検索

[◀ 検索MENUへ戻る](#)

【文書の詳細検索】

[メインデータベース](#) | [併用データベース](#)

 検索  リセット  ヘルプ

史料目録	検索条件
内容(キーワード)	<input type="text"/> AND
資料名(タイトル)	<input type="text"/> 含む AND
年度・分冊など(Vol)	<input type="text"/> 含む AND
保管責任部署	<input type="text"/> 含む AND
編著者/寄贈者:	<input type="radio"/> 編著者 <input type="radio"/> 寄贈者
	<input type="text"/> 含む AND
資料処理年:	<input type="text"/> ~ <input type="text"/> AND
資料媒体:	(例) H17 <input type="text"/> 含む AND
資料ID:	<input type="text"/> 含む

ページあたりの表示件数: 件

最大取得件数 (0は全件): 件

【九州大学附属図書館】

1. 学術講演会「人文科学の研究・教育基盤としての大学図書館」を開催

平成17年1月7日、附属図書館は、九州大学21世紀COEプログラム（人文科学）「東アジアと日本：交流と変容」との共催により、ブリュッセル自由大学の文学・哲学部長であり、図書館長でもあるジャン＝ピエール・ドゥヴロワJean-Pierre Devroey教授による学術講演会「人文科学の研究・教育基盤としての大学図書館」を開催した。九州地区の人文科学研究者及び図書館職員約60名が聴講した。

ベルギーおよびブリュッセル自由大学における人文科学とくに歴史学の教育方法の特徴やブリュッセル自由大学図書館の概要、当大学図書館が教員と協力して展開している利用者教育プログラム「シェルパ」などが紹介された。同様の課題を抱え努力を重ねている日本の大学図書館および学部、大学院にとっても大変参考になると好評であった。

講演後、教授と当館若手職員6名とによるティーテーブルがセットされ、個々人の努力や図書館の経営力の重要性、図書館員に求められる資質、新しい技術協力や職員交流の可能性など話題は多岐にわたり、若手図書館員にとって刺激的で記憶に残るひとときとなった。

2. ソウル大学校中央図書館から客員図書館員を受入

附属図書館とソウル大学校中央図書館は、平成11年に図書館間交流協定を締結した。平成13年に大学レベルでの学術交流協定が締結されたこととともない、図書館間交流協定は大学間交流協定に包摂されることになったが、平成15年5月には、新たに業務交流に関する覚書を取り交わした。

この覚書の趣旨に基づき、平成17年2月28日から8月26日までの6ヶ月間、ソウル大学校中央図書館の李成烈氏を客員図書館員として迎えた。李氏は、日本における資料の保存と管理や図書館間協力について研修を行った。さらに、資料保存の取り組み状況を実地調査するため、九州地区内および東京地区の大学図書館等を訪問した。

3. 展示会「シーボルトが観た日本」を開催

平成17年2月8日から13日までの6日間、福岡県立図書館、アクロス福岡との共催により、展示会「シーボルトが観た日本－『NIPPON』、『日本植物誌』、『日本動物誌』そして福岡の人々－」を、アクロス福岡（福岡市中央区）を会場に開催した。展示した図版は、医学分館で新たに発見された『NIPPON』未製本図版約170枚で、幕末日本の風景や習俗が楽しめるものである。また、シーボルトの著作を展示することで、彼が果たした役割や福岡とのかかわりにも関心を引き寄せることを目的とした。

この展示会は、昨年5月の開学記念行事附属図書館展示会「シーボルトが観た日本」が、県立図書館の協力もあり好評を博し、都心での開催を熱望されたことにより開催されたものである。実現にあたっては、県立図書館が所蔵するシーボルト『NIPPON』初版本と比較対照するなど、同館とさらなる連携を図るとともに、長崎大学附属図書館、シーボルト記念館、ドイツ中部の都市ヴュルツブルクにあるシーボルト協会の協力も得た。

展示会には、6日間で2,469名の入場者があり、期間中に行った2つの関連講演会とともに、盛況のうちに終了した。

4. 図書館事務組織の改組

平成17年4月1日より、附属図書館事務組織の大幅な改組を行った。新たな事務組織は、戦略的に図書館の課題を遂行するための図書館企画課、高度な利用支援サービスを提供する利用支援課、電子情報資源を含む多様なメディアによるコレクションを構築するためのコンテンツ整備課の3課体制である。

これを受けて、中央図書館では利用者スペースおよび事務スペースに大幅なレイアウト変更を行った。従来離れた位置にあったレファレンス・カウンターをメインカウンターに一元化し、閲覧席を増やすなど、利用者の利便性の向上を図った。

また、旧文学部・教育学部・法学部・経済学部の学部図書室を統合して、文系合同図書室とした。これにより、各学部書庫の行き来が自由

になり、複数の学部の資料を一度に貸出することができるようになった。また、閲覧席を増設し、開室時間を平日は9時から22時まで、土曜日も10時から17時まで延長し、文系学部所属者以外も書庫への入庫を可能にするなど、利用者サービスの拡大に努めている。

5. 貴重資料展示会「源氏物語の本いろいろ」を開催

開学記念行事の一環として、「源氏物語の本いろいろ－源氏物語はどんな本で読まれてきたか－」をテーマに、平成17年5月9日から18日までの10日間、貴重資料展示会を開催した。中央図書館・文学部・六本松分館が所蔵する資料のほか、個人蔵の貴重な資料合わせて約100点あまりを、会場の中央図書館に一堂に展示した。411名にのぼる入場者からは好評を博した。

また、期間中の5月15日には、辛島正雄助教授（本学人文科学研究院）による公開講演会「『源氏物語』はどのように読まれたか？－平安・鎌倉期の読者たち－」も行った。102名にのぼる来場者らは、熱心に聴講した。

6. 目録システム地域講習会（図書コース・雑誌コース）を開催

国立情報学研究所の目録所在情報サービス参加機関の業務担当者を対象に、目録システム地域講習会を行った。例年開催している図書コース（平成17年6月15日－17日）に加えて、今年度は雑誌コース（平成17年8月3日－5日）も実施した。近年NACSIS-CATの品質低下が問題となっている中、受講者は熱心に3日間の講習を受け、実務上での疑問点など多くの質問を講師に投げかけていた。

【熊本学園大学付属図書館】

平成17年11月5日午後2時から、熊本学園大学付属図書館地階AVホールで「まちづくりに貢献する図書館」と題して公開フォーラムが開催された。講師は日本図書館協会理事で前浦安市立図書館長の常世田良（とこよだ りょう）氏。学内関係者はじめ県内の公共図書館や学校図書館のほか、一般市民など約110名が参加した。今回、初の試みとなった同フォーラムは、今後

講師は本学職員のほか、福岡教育大学、長崎大学、山口大学、八代工業高等専門学校からも派遣していただいた。

7. 伊都キャンパスに理系図書館がオープン

平成17年10月1日に開校した九州大学の新キャンパス「伊都キャンパス」に新たに理系図書館が開館した。（＊理系図書館については、「図書館紹介」を参照）附属図書館は、理系図書館の開館を記念して、開館記念式典のほか、一連の記念イベントを行った。

10月18日には、セミナー「九州大学研究者のインパクト」を伊都キャンパスのビッグオレンジで開催した。このセミナーは、引用索引データベースの分析を通して九州大学研究者の百年にわたる研究動向を振り返り、九州大学の今後の研究戦略を展望するために開かれたもの。セミナーは、テレビ会議システムにより、箱崎キャンパスの第2会場を結んで行われた。なお当館は、引用索引データベースWeb of Scienceの千九百年に遡るアーカイブであるCentury of Scienceを、アジア太平洋地域ではじめて導入している。

さらに10月20日、「日韓友情年2005」認定記念事業でもある、国際シンポジウム「本が繋ぐ近い都市（まち）：日韓図書館交流2005」をアクロス福岡で開催した。このシンポジウムでは、図書館協力を日韓文化交流を支えるものとして、地理的に近接する福岡市と釜山市の図書館関係者、学生、市民、学識経験者が参加し（約100名）、地域的な図書館協力について活発な意見交換を行った。この日韓国際シンポジウムは、来年釜山でも開催される予定である。

大学図書館が進むべき方向や、「図書館」そのものの本質をあらためて考えなおそうと館内研修の一環として企画されたが、折から熊本市図書情報センターの基本計画策定が進められていることもあり、公共図書館に関心を寄せる一般市民にも公開することになったもの。

常世田氏は、常に先進的な活動で知られる千葉県浦安市立図書館に20年余にわたり勤務、従

来の「読書材の提供」のみだった図書館から「暮らしに役立つ」「ビジネス支援」などの新たな図書館の在り方を推奨、実践してきた行動派図書館人。

講演では、従来の社会は個人レベルで情報収集する必要性は低かったが、今後日本が「自己判断自己責任」型社会に移行していくなかでは、正確な情報が公平に提供されるシステムが必要であり、公共施設のなかではもっとも敷居が低い公共図書館がその役割を果たさなければならぬと主張。マスコミや出版流通、インターネット

の限界の例、アメリカの公共図書館の現状、先進的な例などを紹介し、公共図書館が担うべき役割を力説した。参加者の半数以上を図書館関係者が占めるなか、厳しい情報環境において図書館としてできること、すべきことは何かという喫緊の課題に熱心に聞き入っていた。講演終了後は、図書館設置運動の展開方法や熊本市図書情報センター建設問題に関わる質問や意見などが出され、予定の時間を超えて質疑応答が続いた。

【熊本大学附属図書館】

1. 熊本大学学術資料調査研究推進室シンポジウム

「問い続ける水俣・水俣病ー水俣病50年をまえにしてー」

平成17年2月5日(土)附属図書館及び学術資料調査研究推進室共催で水俣病に関するシンポジウムを開催した。

熊本大学では図書館内に学術資料調査研究推進室を設置し、「ラフカディオ・ハーンコレクションのデータベース化の研究」「熊本大学が所蔵する古文書の分析、研究」及び「水俣病関係学術資料の整理収集」の3つのテーマに関して、学術資料の体系的な収集・調査及び研究を行っている。

このシンポジウムは、水俣病グループの活動の一環として開催したものであり、3名の水俣病研究者・市民活動家による基調講演の後、さらに3名のメンバーを加えパネルディスカッションを行った。

また、このシンポジウムのすべてを報告書にまとめ発行した。

2. 熊本大学東京リエゾンオフィスイブニングセミナー講演会

本学では東京リエゾンオフィスを開設しており、知的財産創生推進本部の主催で、年間数回テーマを定めてイブニングセミナーを開催している。

今回は3月8日「ハーンの魅力と熊本の魅力」と題して、本学教員による講演会を図書館、教育学部及び法学部の協力の下に開催した。

これは、ハーンの現代性と未来性を中心に、本学におけるハーン研究の現状を、地域性と国際性の観点から報告し、また、本学が位置する熊本の魅力を紹介するものであった。

3. ダイナマイト新歓の開催

4月10日(日)新入生歓迎行事の一環として、ダイナマイト新歓が企画され、図書館もブースを設け図書館の案内、利用法など新入生に対してPR活動を実施した。

第35回九州地区国立大学図書館協会総会・第56回九州地区大学図書館協議会総会の開催

4月21日、22日の両日、本学の当番で、標記会議を熊本市において開催した。(詳細については別記)

4. 図書館ガイダンスの実施

4月から5月にかけて、新入生に図書館を紹介する新入生ガイダンス、効果的な図書館利用の仕方についての基礎セミナーガイダンス等多彩なガイダンスを行った。

5. 第11回熊本県大学図書館協議会総会の開催

5月16日(月)本学の当番で開催し、16年度決算・事業報告及び17年度予算・事業計画等について協議した。

6. 熊本大学教育学部附属養護学校職場体験学習

熊本大学教育学部附属養護学校の職場体験学

習が、6月28日から7月1日までの4日間行われ、本館でも3名の生徒を受け入れ、図書館業務を体験させた。

7. 熊本県大学図書館協議会実務者研修の実施

8月24日(水)熊本大学内のくすのき会館を会場に、熊本大学医学部附属病院助教授菊池 健氏を講師に招き、県大図協実務者研修会を実施した。本年4月に個人情報保護法が施行されたことにちなみ、図書館と個人情報保護の関わりをテーマとした。会には大学図書館のみならず、県立図書館・熊本市立図書館等の職員も参加し、講演の後熱心な質疑応答を行った。

8. 熊本市立桜山中学校職場体験学習

9月13日から16日までの4日間、熊本市立桜山中学校の職場体験学習で、生徒2名を受け入れ、図書館業務を体験させた。

9. ハーン講演会及び資料展開催

9月26日(月)がラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の命日に当たることから、附属図書館及び学術資料調査研究推進室は講演会及び資料展を開催した。講演会は、ハーンの孫に当たる稲垣明男氏を招き、「八雲の忌百年経たりー八雲次男稲垣 巖のことなどー」と題し五高記念館の当時をそのままに復原した教室で開催し、会場に入りきれないほどの市民等が来場した。さらに本学教員2名が加わり「ハーントーク」を行い、会場からも盛んに発言があった。

なお、26日から10月7日までの2週間にわたり、図書館中央館2階にてハーンゆかりの資料や本学教員の著作などを展示した。

10. 後期ガイダンスの実施

11月、後期ガイダンス(中級編)を実施した。中級編は、レポートや卒論の作成に役立つことを目的とし、所蔵を調べる、雑誌論文を探す及び新聞記事を探す、の3つのコースを設け、実

際にパソコンを使って検索の仕方等を説明した。

11. 第22回貴重資料展・講演会の開催

「古今和歌集 その豊饒の世界」

本年は古今和歌集が編纂されてから1100年に当たり、熊本では旧藩主細川家の祖細川藤孝(幽齋)が古今伝授を受けるなど古今和歌集との関わりも深いことから、熊本大学と県立大学、尚絅大学が共同して「古今和歌集1100年熊本フォーラム」として多彩な行事を展開、熊本大学附属図書館も従来開催してきた貴重資料展をこの一環として位置づけ、11月4日から6日までの3日間、第22回熊本大学附属図書館貴重資料展「古今和歌集 その豊饒の世界」を開催した。資料展には本学が寄託されている永青文庫から幽齋自筆の古今和歌集など26点を展示した。

また6日には本学文学部森 正人教授による「絵と歌と物語と」と題して公開講演会を開催し、市民等約80名が来聴した。

12. 熊本県大学図書館協議会セミナー開催

11月22日(火)平成17年度熊本県大学図書館協議会セミナーを、文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室大学図書館係主任の及川善博氏を講師に迎えて開催した。

今年度は、6月に科学技術・学術審議会学術分科会が「学術基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について(中間報告)」を公表したことに鑑み、大学図書館にとっては国公立を問わず理解しておくべきことであると考え、セミナーのテーマとして選び、この中間報告の審議過程に携わってきた及川氏に、中間報告に至る経過、今後の審議の方向など解説して頂いた。

当日は熊本大学くすの木会館でのセミナーに、協議会加盟8大学・2高専から34名が参加し、大学図書館の今後を考える上で極めて重要なこのテーマについて、熱心に聴取しさらに質疑応答も活発に行われた。

【佐賀大学附属図書館】

「佐賀大学の学生にすすめる本ー本学教員による図書案内ー」について

佐賀大学附属図書館では、平成17年度の読書

奨励事業として、標記の事業を行った。一学生からの、「先生方の最も感銘を受けた本について、それぞれの先生と語り合ってみたい」とい

う提案が基になり、企画されたものである。教員から「学生にすすめる図書」の推薦を募集し、書名、推薦理由などを掲載した冊子を作成・配布した。また、ホームページでも公開した。

推薦された図書は閲覧室に備えるとともに、学生からの感想を募集しており、これを契機に学生と教員の交流が生まれることを期待している。

【筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館】

1. 名称変更

平成17年4月より筑紫女学園短期大学は名称を「筑紫女学園大学短期大学部」に変更しました。

同時に併設の筑紫女学園大学文学部に英語メディア学科を、筑紫女学園大学短期大学部には現代教養学科を開設し、筑紫女学園短期大学国文科・英文科・生活学科は学生募集を停止しました。

このことによって本学図書館も名称を「筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館」と変更しました。

2. 図書館情報システム更新

平成17年8月に図書館情報システムの更新を行ないました。今回は同一パッケージシステム（リコー社LIMEDIO）でのバージョンアップとなりましたが、携帯電話でのOPAC検索が可能となり、学生の図書館利用増進に大いに資するものと思われます。

また、学内LANもシステム統合化の方向にあり、平成18年2月には学内認証システムを利用した図書館ポータルを導入を予定しています。

年度内はテスト運用のため非公開ですが、平成18年4月から「マイライブラリ」機能により利用者と図書館の双方向通信が可能となり、具体的には貸出中資料・履歴の照会など、利用者自身の個人情報により安全に確認できるようになります。

「マイライブラリ」による図書館サービスの提供についても段階的な拡大を目指し目下準備中です。

る。

・会議開催

本学が当番で以下の会議を開催しました。

- 第13回 九州地区医学図書館員セミナー
12月7日(水)

3. オンラインデータベースの拡充

近年Webで利用するオンラインデータベースが普及してきています。

本学でも朝日新聞記事データベース「聞蔵」、「ジャパンナレッジ」（ネットアドバンス）「ネットで百科」（日立システムアンドサービス）など9点について学内利用限定で契約をしています。

まだ決して多いほうではありませんが、この11月からは「大宅壮一文庫雑誌記事検索Web版」を追加し、既存の「MAGAZINEPLUS」（日外アソシエーツ）とは相互補完ともなるような多種の雑誌について記事検索ができるようになりました。

4. 読書感想文コンクール

今夏、初めての試みとして学生を対象にした読書感想文コンクールを実施しました。

図書館利用促進を目的とするため、課題図書は本学図書館の蔵書であることを条件とし、請求記号の明記を義務付けました。

公募期間が約2ヶ月と短かったにもかかわらず23編の応募があり、各学科の教員で構成する図書委員会で審査を行なった結果、最優秀賞1名、優秀賞2名、佳作4名を選出しました。

入賞者については10月29日の本学学園祭に於いて表彰式を開催し、発表と同時に表彰を行いました。また、最優秀作品を学生向けの図書館広報誌「LIBRARY NEWS」に掲載したほか、応募作品集を冊子体にして発行する予定です。

【長崎大学附属図書館】

学生懇談会の要望に応じて利用環境を改善

平成15～16年度に開催した学生懇談会での意見や要望に応じて次のような改善を行なった。

- ① 開館時間を延長：中央図書館で従来午後8時であった閉館時刻を午後9時45分に延長した。（平成17年4月より）
- ② グループ学習室及びメディアサロンを開設：グループで利用できる場所が欲しいという要望に応じて、中央図書館にグループ学習室（平成17年3月）及びメディアサロン（同11月）を、医学分館にグループ学習室（同10月）を開設した。

平成17年度、中央図書館のある文教地区では、学生懇談会をさらに充実させるために、学部ごとに学生懇談会を実施した上で、地区全体の学生懇談会を実施した。また、それに先立ち、学部の図書委員会との連携を強めるために、各学部の図書委員会を図書館内で開催してもらい、学生用図書の推薦方法について説明し、実際に開架図書を見て学生用図書の現状を把握してもらった。

3つの懇談会で図書館のあり方等を検討

次の3つの懇談会を設置し、今後における図書館のあり方等を検討している。

① 附属図書館あり方懇談会

目的：法人化後の図書館のあり方（図書館及び図書館長の位置づけ、事務組織体制、図書館の役割、中・長期的展望）を検討する

構成：図書館長、分館長、学内教員、図書館部職員

② 情報クロスロード懇談会

目的：図書館、情報メディア基盤センター、生涯学習教育研究センターの連携のあり方について検討する

構成：図書館長、両センター長、両センター教員、図書館部職員

③ 附属図書館経営懇談会

目的：外部の有識者に図書館を視察してもらい、図書館経営について提言を受ける

構成：書店、広告代理店、博物館展示業者、新聞社、タウン誌出版社、図書館長、

図書館部職員

①と②は終了。③は平成17年度中に実施予定。

貴重資料展示室を公開、展示会と講演会を開催

中央図書館及び2つの分館に貴重資料展示室を開設し市民に公開した。（平成17年6月より）

- ① 中央図書館：古写真展示室
- ② 医学分館：近代医学史料展示室
- ③ 経済学部分館：武藤文庫展示室

また、「長崎大学所蔵資料で見る長崎の近代化」を総合テーマとする合同企画展を各館展示室で同時開催した。期間中には展示資料に関する講演会も開催した。

① 展示会

期間：平成17年10月18日～27日

入場者：690名

② 講演会

開催日：平成17年10月22日（土）

講師：岡林隆敏（附属図書館長）

相川忠臣（医学部教授）

柴多一雄（経済学部分館長）

入場者：59名

長崎大学附属図書館連続講演会（全3回）を開催

今後における学術情報流通のあり方について大学の教職員及び学生の理解を深めるために「学術情報流通は今ー現状と課題」を総合テーマとする連続講演会（全3回）を長崎県大学図書館協議会との共催で開催している。

第1回 学術情報基盤の再構築

開催日：平成17年11月15日（火）

講師：土屋 俊（千葉大学附属図書館長）

入場者：56名

第2回 学術情報発信の新しい動向

開催日：平成17年12月9日（金）

講師：安達 淳氏（国立情報学研究所）

尾城孝一氏（国立情報学研究所）

永井裕子氏（日本動物学会）

下田研一氏（長崎大学附属図書館）

第3回 学術機関リポジトリ

開催日：平成18年1月30日（月）（予定）

【福岡教育大学附属図書館】

学生支援経費の枠組み

これまで、経常的には手当てされていなかった学生用図書購入費について、昨年度の学内ヒアリングにおいて要求した結果、額は少額ではありますが、学内の合意を得られ、年度当初の学内予算配分において枠組みされ認められました。

これにより、学生のための資料、特にシラバス掲載の参考文献を中心に整備を進める計画です。

国際交流コーナーの新設

田嶋記念大学図書館振興財団へ申請の結果、国際交流コーナーの整備と中性紙箱の購入が認められました。

使われていなかった2階の目録室を改修し、書架及び閲覧機を取り揃え、留学生用の日本語学習資料等を中心に配架して、国際交流コーナーとして整備しました。

また、中性紙箱は漢籍の貴重なものを収納し、劣化対策を講じました。

情報リテラシー支援講習会の開始

これまでは、入学当初の図書館ガイダンスとして、希望があった授業の一環で図書館ツアーを実施していましたが、今年度はこれに加えて、情報リテラシー支援の講習会を開催しました。今回は初級編に相当するものですが、順次、内容を検討し、様々な利用者に対応できるよう展開していく計画です。

【宮崎大学附属図書館】

1. 電子ジャーナル等アンケートの実施

本学の中期目標・中期計画の平成16年度事業計画に基づき、本学教員に対し、『宮崎大学における電子ジャーナル、電子的資料、文献検索データベース等に関するアンケート』を3月中旬に実施した。記名式にしたところ、回収率が55%以上に達した。本学においても、電子ジャーナルの充実を求める声が多いことが判明し、電子ジャーナル経費の学内共通経費化に向けて、大いに参考になった。

2. 宮崎県大学図書館協議会臨時会議の開催

昨年度の当番館であった宮崎産業経営大学とともに3月に開催し、本協議会活動の今後の在り方を検討した。この会議では意見交換を行い、7月の総会において、本協議会に会長館、監事館及び当番館を置くことが決定し、本学が責任ある館として会長館になることとなった。

3. 図書自動貸出返却装置の導入（更新）

3月に本館において自動貸出返却装置を導入、同時に医学分館では同様のものに更新した。なお、本館では、図書の大半がOCR式の資料IDを

貼付されているため、自動貸出返却装置の読取機能に対応できないので、それらの図書にバーコード式の資料IDを貼付することが課題となっている。

4. 学習スペースの拡充

本館においては、昨年、グループ学習室を増設することにより、学習スペースを拡充したが、医学分館においても、3月に開学20周年記念コーナーを移設し、空いたスペースに情報コンセント付きキャレルデスクを設置し、学習スペースを拡張した。

5. 事務組織の変更

本学の事務組織の見直しに伴い、4月1日から、次のように事務組織を変更することにより、グループ制を導入した。

旧) 雑誌情報係、図書情報係、電子情報係

↓

新) 情報管理係（資料担当／情報担当）

旧) 利用サービス係

↓

新) 本館利用係（サービス担当／相互利用担

当)
旧) 医学情報係、医学利用サービス係
↓
新) 分館利用係 (サービス担当/相互利用担当)

6. 国際ソロプチミスト宮崎ーフェニックスへの感謝状贈呈

本館では、国際ソロプチミスト宮崎ーフェニックス様より、平成8年より本年にかけて9回にわたって、寄付をいただき、留学生用図書の一部を購入してきた。その寄付が本年をもって終了することになり、長年の寄与に対して、学長より感謝状を9月29日(木)に贈呈していただいた。

7. 本館1階に書架を増設

書架スペースの狭隘化が、本館、分館ともに問題となっている。本館では9月に1階の大型本コーナーをホールに移設し、そのスペースに書架を増設した。このことにより、学生用図書の5年分の増加には対応できることとなった。ただし、学生用図書以外の資料の増加には対応できないという課題は解消されていない。

8. 電子ジャーナル経費の学内共通経費化要求

10月、本学の課題となっていた電子ジャーナル経費と電子ジャーナルに関わる学術雑誌の経費の一部の学内共通経費化を財務委員会に要求した。このことについて、各学部長等に了解を得る働きかけを行った。

【琉球大学附属図書館】

EU資料センター展を開催

5月16日から27日までの12日間、情報ラウンジにおいて駐日欧州委員会代表部が主催する日本と欧州連合の友好週間イベントの一環として、EU資料センター展を開催しました。この友好週間は、欧州連合(EU)に関する理解を深めることを目的とし、毎年5月に全国で開催されています。2005年は、日本とEUとの市民交流年にあたり、国内19カ所のEU資料センターの一つに指定されていることから沖縄県内の研究者や利用者にEU各国との交流への関心を高めるため開催

9. 配架図書検討専門委員会の設置

書架スペースの狭隘化が問題となっており、これまでのような重複図書の廃棄、使う価値のなくなった資料の廃棄等ではこの問題に対応できなくなり、もっと抜本的な解消方法を検討することとし、10月に配架図書検討専門委員会を発足させた。この専門委員会では、本館及び医学分館の重複雑誌の調整、3冊以上ある重複図書の扱い、教員からの返却資料(図書・雑誌)等の扱いについて、検討を行う。

10. 廃棄図書の配付

11月に廃棄する図書の中から学生が必要としそうなものを選定し、本館内で学生に無料で持って行ってもらうことにした。このことは好評のようで、かなりの冊数が捌けた。

11. 附属図書館講演会の開催

法人化後初めての附属図書館講演会を11月4日(金)に開催した。テーマは「宮崎の地勢と風土」で、教育文化学部の横山淳一教授に講師をお願いした。参加者は30名以上で一般の方が数名参加された。

12. 医学分館での24時間利用対象者の拡大

現在、3年生以上の学生は24時間利用の申請を行い、利用説明を受けると、24時間利用ができる。今年度より1、2年生も24時間利用の対象とすることとし、11月より申請を受け付け、説明会を実施した。

しました。

見学者からは、「いろいろな国が集うEUの実態を知ることができる良い機会だと思います」等意見があり、EUへの関心が伺われた。



EU資料センター展の様子

公共図書館と連携した貴重書展開催

10月25日から30日までの6日間、沖縄県南部の糸満市立中央図書館で、「琉球・沖縄の歴史と文化を語る多彩な資料」をテーマに、貴重書展を開催した。

琉球・沖縄研究に大きな足跡を遺した伊波普猷・仲原善忠・島袋源七らが所蔵していた資料

の中から30点を展示した。

公共図書館との地域連携による開催は、県内北部、中部、南部と3回目である。

小中高校生をはじめ郷土史研究者など1,200名を越える見学者があった。

沖縄の歴史・文化資料を身近なところで見る事が出来てよかったと喜ぶ声が多かった。



貴重書展の様子

図書館活動報告

福岡県・佐賀県大学図書館協議会

【北部地区研究会】

第1回研究会

日時：平成17年7月8日(金)
13:30～16:50
場所：九州工業大学附属図書館
(4階AVホール)

出席者：14館29名

議事

- (1) 平成16年度会計決算報告及び監査報告
- (2) 平成17年度予算審議
- (3) 承合事項
 - ① 「北九州地区大学図書館利用案内」の変更について
 - ② 図書館利用者アンケートについて
 - ③ 図書館内におけるプリンターの設置について
 - ④ 個人情報保護法と閲覧サービスについて

講演

演題：「県内における図書館連携の現状と課題について」

講師：福岡県立図書館 堀下富士雄氏

協議事項

「県内における図書館連携の現状と課題について」

第2回研究会

日時：平成17年12月8日(木)
13:30～16:30
場所：九州共立大学附属図書館
(4階マルチメディア室)

出席者：14館26名

議事

- (1) 協議事項
「北部地区大学図書館職員の短期実務交流について」
- (2) 承合事項
 - ① 学生の図書購入リクエストについて
 - ② 一般利用者に対する複写サービス及び資料貸出サービスについて
 - ③ 図書資料の分類体系及び請求記号の

運用について

講演

演題：「最近のITの話題から」

講師：印丸 哲 (シトリックス・システムズ・ジャパン株式会社
システムエンジニアリング部長)

確認事項

- ① 福岡県・佐賀県大学図書館協議会北部地区研究会の平成19年度当番館
(福岡県立大学、産業医科大学、西日本工業大学)
- ② 福岡県・佐賀県大学図書館協議会の平成18年度理事館及び監事館
(理事館：九州工業大学、監事館：九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学)

【福岡地区研究会】

第1回研究会

日時：平成17年9月16日(金)
13:30～17:00

場所：福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館

出席者：15館(27名)

講演

「国内と海外のILLについて」

九州女子大学附属図書館長 高橋 昇

国内をはじめ、海外との図書館相互貸借業務は、年々増加傾向にあり、その的確、円滑な業務処理は図書館業務遂行上極めて重要である。

本講義では、長年、司書兼ねてILL業務に携わってきた講師の勉学エキスと実事例、教訓に基づく具体的平易な説明が行われた。

特に、海外におけるILL業務担当者にあたっては、図書に関する高度の知識を持つことは勿論、外国語にも精通していなければならないことを強調すると共に海外ILL受付事例、事前準備と注意事項、トラブルと対処法、OCLLでの受付手順及び海外ILL依頼の各項目等について説明がなされた。

事例発表

「九州産業大学図書館におけるILLの現状」

九州産業大学図書館 宮丸 由美子

同大学図書館の概要説明につづきILL（国内、海外）の過去と現在の状況及び今後の問題点について報告がなされた。

特に、今後の問題点として、料金、担当者の業務量の増大及び専門性の追求が最大の課題であり、検討事項であることが強調された。

研究発表

「和古書の同定識別に関する一考察」

福岡大学図書館 工藤 邦彦

上記考察については、和古書の組織化についての業務分析、「図書総目録」の検証及び画像表示の可能性を探ることについて研究成果の発表がなされた。

更に、国書の所在に関する記述の見直しが今後の課題であり、考察の結果明らかになった点等について説明がなされた。

承合事項

- 1) 有料EJの契約について（中村学園大学）
- 2) 図書原簿のデータ管理について（同上）
- 3) 図書館資料除籍基準・方針について（九州産業大学）

第2回研究会（予定）

日 時：平成18年3月

細 部：現在検討中

【南部地区研究会】

第1回研究会

日 時：平成17年9月28日（水）

13：30～16：00

場 所：佐賀短期大学 5号館2階会議室

当番館：佐賀短期大学附属図書館

出席者：11館17名

【研究テーマ】

- ① 書架の有効的な利用方法について（提出館：有明工業高等専門学校図書館）
- ② 大学図書館と地域貢献について（提出館：佐賀大学附属図書館）
- ③ 図書館と著作権法との関わりについて（提出館：西九州大学附属図書館）

【協議事項】

南部地区研究会の会計担当選出について（提出館：久留米工業大学図書館）

【承合事項】

- ① 蔵書点検実施後の行方不明図書の取り扱いについて（提出館：西九州大学図書館）
- ② 貴館には寄贈資料の受入れ規定がありますか。あれば、コピーをいただきたい。（提出館：佐賀女子短期大学）
- ③ 地域住民等への開放されている館で、セキュリティ等の対策及び開放により発生した問題等をお聞かせ下さい。（提出館：久留米大学附属図書館医学部分館）

【その他】

次期当番館の確認

長崎県大学図書館協議会

【総 会】

期 日：平成17年6月3日（金）

14：00～16：20

場 所：長崎総合科学大学3号館4階会議室

出席者：12館20名（オブザーバー：長崎県公共図書館等協議会より3名）

議 題：

- (1) 平成16年度事業報告
- (2) 平成16年度決算報告・監査報告
- (3) 平成17年度事業計画（案）について
- (4) 平成17年度予算（案）について
- (5) 総会当番校の順番について

(6) 公共図書館との相互協力について

(7) その他：館員名簿について

報告事項

- (1) 平成17年度研修企画委員について
- (2) 日本図書館協会評議会について
- (3) 各館の当面する諸問題について

【研修事業】

- (1) 研修講演会

日 時：平成17年1月21日（金）

14：00～17：30

場 所：長崎大学附属図書館会議室

- 講師：大場高志氏（国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課長）
 演題：「地方の大学とNIIとの連携－上手に付き合うために－」
 参加者：28名
- (2) 研修講演会（長崎大学附属図書館と共催）
 日時：平成17年2月14日（月）
 15：30～17：00
 場所：長崎大学附属図書館会議室
 講師：植松 貞夫氏（筑波大学附属図書館長）

- 館長）
 演題：「大学図書館の建築と設備」
 参加者：32名
- (3) 公共図書館等協議会との合同実務研修会
 日時：平成17年9月26日（月）
 10：30～14：00
 場所：長崎県立長崎図書館講堂
 テーマ：著作権法・個人情報保護法と図書館
 講師：南 亮一氏（国立国会図書館）
 参加者：88名（大学26名、公共62名）

熊本県大学図書館協議会

1. 総 会

日時：平成17年5月16日（月）
 15：30～17：00

場所：熊本大学くすの木会館

出席者：11館19名 欠席館2館

議 事：

- (1) 平成16年度総会議事録の確認
- (2) 平成16年度事業報告について
- (3) 承認事項
 平成16年度収支決算並びに監査報告について
- (4) 協議事項
 - ア) 平成17年度事業計画（案）について
 - イ) 平成17年度予算（案）について
- (5) その他
 - ア) 会費について
 - イ) 各館の意見や報告による情報交換

場所：熊本大学くすの木会館

出席者：13館34名

内 容：講演および質疑応答

演題 個人情報保護法と図書館

講師 菊池 健氏（熊本大学医学部附病院助教授）

3. セミナー

日時：平成17年11月22日（火）
 14：00～15：30

場所：熊本大学くすの木会館

出席者：10館34名

内 容：講演

演題 学術情報基盤としての大学図書館等の今後の整備の在り方について

講師 及川 善博氏（文部科学省研究振興局情報課学術基盤整備室大学図書館係主任）

2. 実務者研修会

日時：平成17年8月24日（水）
 13：30～15：30

大分県大学図書館協議会

1. 総 会

日時：平成17年8月5日（金）
 15：00～17：30

場所：立命館アジア太平洋大学 本部棟3階 第1会議室

当番館：立命館アジア太平洋大学ライブラリー

出席者：15名

議 題

- (1) 平成16年度事業報告及び決算報告について
- (2) 平成17年度事業計画（案）及び予算（案）について
- (3) 大分県立図書館が主催する「図書館を

- 使った調べ学習コンクール」について
- (4) 今後の役員並びに当番館について
 - (5) その他
- 講演会
- 演題：アウトソーシングを活用した大学
図書館運営
- 講師：田中 康雄氏（立命館大学総合情報センター次長）

2. 研修会

日時：平成18年1月27日(金)

13:00～17:00

場所：立命館アジア太平洋大学

出席者：20名程度

講演会

- ① 演題：未定
講師：石井 保廣氏（別府大学文学部教授）
- ② 演題：機関リポジトリについて（仮題）
講師：未定 国立情報学研究所

宮崎県大学図書館協議会

1. 平成17年度宮崎県大学図書館協議会総会

日時：平成17年7月25日(月)
13:30～16:00

場所：宮崎大学附属図書館共同研究室3階
出席者：11館20名（うち県立図書館2名）

- (1) 平成16年度決算報告及び監査報告について
- (2) 平成17年度事業計画及び収支予算について
- (3) 協議事項について
 - ① 宮崎県大学図書館協議会の今後の在り方について
宮崎県大学図書館協議会会則（改正案）
 - ② 大学図書館と公共図書館との連携について
- (4) 承合事項について
 - ① 紀要について
 - ② 開架書架の狭隘化について
- (5) 次期役員館について

2. 講演会

日時：平成17年12月2日(金)
13:30～15:00

場所：宮崎大学附属図書館視聴覚室3階
出席者：70名（学外一般者を含む）

演題：生きる力をはぐくむ図書館
—文字・活字文化振興法を効果あるものにするために—

講師：種村 エイ子氏（鹿児島国際大学短期大学部助教授）

3. 実務者連絡会（講演会終了後）

日時：平成17年12月2日(金)
15:15～16:00

場所：宮崎大学附属図書館共同研究室3階
出席者：13名

内容：参加加盟館担当者との意見交換
（情報検索ガイダンス、書架の狭隘化、危機管理等）

4. 平成17年度宮崎県大学図書館協議会総会（第2回）及び研修会

日時：平成18年2月中旬～3月中旬
13:30～16:00（予定）

場所：宮崎大学附属図書館共同研究室3階
協議事項：未定

鹿児島県大学図書館協議会

1. 第26回鹿児島県大学図書館協議会総会

日時：平成17年5月24日(火)
13:30～15:30

会場：鹿児島女子短期大学 第3会議室

出席者：加盟9大学、1高専及び鹿児島県立図書館（オブザーバー館）計24名

議事：
(1) 平成16年度会務報告について

- (2) 平成16年度決算報告及び監査報告について
- (3) 平成17年度事業計画について
 - 1) 研修委員会について
 - 2) 会報編集委員会について
- (4) 平成17年度予算審議について
- (5) 協議
 - 代表館、副代表館、監査館の選出方法について
- (6) その他
 - 1) 図書館間サービス強化の方策について
 - 2) 開館の時間延長について

2. 平成17年度鹿児島県大学図書館協議会講演会

日 時：平成17年11月10日(木)
14:00～17:00

場 所：鹿児島大学附属図書館（中央図書

- 館) 5階ライブラリーホール
- (1) 講演会 14:00～15:30
演 題：図書館職員の専門性とキャリアパス
講 師：笹川 郁夫氏（東京大学附属図書館事務部長）
- (2) 意見交換会 16:00～17:00

3. 平成17年度鹿児島県大学図書館協議会研修会

日 時：平成18年1月26日(木)

場 所：鹿児島国際大学附属図書館 4F 視聴覚ホール

テーマ：大学図書館が実施する学習・教育活動の支援

ー米国のアラム・カレッジの取り組みを中心にー

講 師：長澤 多代氏（長崎大学教育機能開発センター）

沖縄県大学図書館協議会

1. 平成17年度（第33回）総会

日 時：平成17年7月28日(木)
14:30～15:25

会 場：名桜大学

出席者：9館33名

議 題：

- 平成16年度決算報告について
- 平成16年度監査報告について
- 平成17年度事業計画について
- 平成17年度予算について
- 平成18年度の当番館及び平成17年度の監査館選出について

2. 講演会

- (1) 平成16年度第2回講演会

日 時：平成17年2月24日(木)

15:00～17:00

会 場：琉球大学

演 題：「大学図書館と国立情報学研究所：より強い連携を求めて」

講 師：小西 和信氏（国立情報学研究所開発・事業部次長）

参加者：54名

- (2) 平成17年度第1回講演会

日 時：平成17年7月28日(木)
15:35～16:45

会 場：名桜大学

講 演：「高専制度と沖縄高専、そして図書館」

講 師：角田 正豊氏（沖縄工業高等専門学校図書館長）

参加者：37名

第35回九州地区国立大学図書館協会総会議事要録

1. 開 会

熊本大学附属図書館の松藤学術情報課長から開会宣言がなされた。

2. 地区代表館の挨拶

九州地区代表館の今西九州大学附属図書館長から挨拶があった。

3. 当番館の挨拶

当番館の中山熊本大学附属図書館長から挨拶

捗があった。

4. 会議日程説明・配布資料確認

松藤課長から、日程説明及び資料の確認があった。

5. 議長選出

慣例により、当番館長である中山熊本大学附属館長が選出された。

6. 議長就任挨拶

中山熊本大学附属館長の挨拶があった。

7. 出席者自己紹介

出席者の自己紹介があった。記録者等の陪席者は松藤課長から紹介された。

8. 協議事項

1) 九州地区における電子ジャーナルの一括共同契約・購入について

提案大学の宮崎大学からp. 3の提案理由に基づき説明がなされ、つづいて種々意見の開陳がなされたが、各館の事情もあり統一的対応には問題点もあるので、最終的結論は取りまとめないこととし、今後も更に各館で検討を続けることとなった。

また、研究者による論文投稿が主要出版社に偏りを見せる中、投稿の在り方(情報の発信の仕方)によっては価格の値下げにも結びつく、というグローバルな視点も必要である旨、議長から付言があった。

(意見)

- ・魅力的テーマであるが、メリット・デメリットが見えない。
- ・今のところ具体的メリットが見えない。
- ・契約一元化以前に学内での整理が必要であり、とにかく予算確保に苦慮している。
- ・契約とサービスが密接に結びついている業務なので、切り離しては難しいのではないか。
- ・全国規模のタスクフォースでも解決つかない事であるので、地区としての解決は困難ではないか。
- ・契約を一元化すると、専門性をもたない大学が出てくるのではないか。
- ・契約について、大学の職員では勝負にならないので、専門的な交渉人を立ててはどうか。
- ・電子ジャーナルについては、国大図協のタスクフォースでも大変な労力をもって

検討されているが、出版社の方が強く世界的な価格形体でもあるので、タスクには値上げの抑止力はない。

・毎回毎回このような議論を続けることが、出版社に対して、いつか、どこかで、プレッシャーになるのではないか。

・研究者の論文投稿に関して、自分の所から発信して価格構造を世界的に変えるというグローバルな視点も必要ではないか。

2) 国立大学図書館職員採用試験について

① 17年度図書系職員採用試験について

九州大学から資料に基づき説明があり、以下のことについて了承された。

・委員名簿(資料p. 16)、全国レベルでの試験問題作成に伴う地区要項の廃止(資料p. 17)、7月10日の実施(資料p. 18)

・個別面接は各大学が行う。

・共通試験に関わる経費負担について、昨年に比べ全体額が小額なこともあり、ランク付けせず均等負担とする意見もあったが、具体的な負担方法については委員会で今後協議することとなった。なお、平成17年度採用予定は4名との説明があった。

② 平成18年度以降の対応について

九州大学から平成18年度からの再雇用制度では、退職者があったとしても新規採用はしないなど各大学の採用事情がでてくるだろうが、しかし、図書系職員採用については専門試験は必要であり専門委員会が実施前提で動いているので、意見があれば反映させたい旨、説明があった。

協議の結果、今後の推移を見ながら進めていくことで了承された。

3) 九州地区国立大学図書館協会の代表館選出について

九州大学が選出された。

4) 国立大学図書館協会等の運営について

① 平成17年度九州地区選出理事候補館について

九州大学が選出された。

② 平成17年度九州地区選出幹事候補館の選出について

議長から、全国的な状況を勘案し、東地区から筑波大学、千葉大学、西地区から神戸大学、岡山大学の提案があり、了承された。

- ③ NACSIS-CAT/ILLの課題解決について
議長から当該議題は議題6と密接に関係があるので、2件合わせて協議したい旨、提案があり了承された。

九州大学及び渡辺課長から案件の説明に続いて問題の背景、対応の仕方、実務レベルでの検討の必要性、議論のレベル及び進め方等々、種々意見が開陳された。最終的まとめは地区代表館の九州大学と当番館の熊本大学で取りまとめ、各館にフィードバックした後、国大図協事務局に報告する事となった。

- ④ 国立大学図書館協会での研修企画について
九州大学から資料p. 25～p. 29における3件の研修計画の説明があり、了承された。
(意見)

・北村長大部長から、フレッシュ・パーソン・セミナー研修は、九州地区で行うのであれば協力する旨、発言があった。

・浜崎九大部長から、フレッシュ研修は、広島大から、中四国と合同で行わないかと話があると説明がなれた。

- 5) 九州地区大学図書館協議会等の運営について

- ① 平成17年度九州地区大学図書館協議会の役員館の選出について

副幹事館長崎大学、表彰委員館琉球大学、編集委員館熊本大学が了承された。

- ② 平成18年度九州地区大学図書館協議会総会の当番館について

次期総会当番館には鹿屋体育大学が了承された。

- ③ 次期当番館長挨拶

鹿屋体育大学の田口附属図書館長から挨拶があった。

9. 終了

平成17年度九州地区国立大学附属図書館長、事務（部・課）長会議

日時：平成17年11月17日（木）
15：00～16：30

会場：九州大学附属図書館視聴覚ホール

出席者：11大学27名

議事

・報告

- (1) 理事会報告
(2) 事務（部・課）長会議報告

(3) その他

・協議題

- (1) 学術情報基盤としての大学図書館の今後の整備の在り方（中間報告）（平成17年6月28日科学技術・学術審議会学術分科会報告）について

(2) その他

平成17年度九州地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議

日時：平成17年11月17日（木）
13：15～14：45

会場：九州大学附属図書館視聴覚ホール

出席者：11大学17名

議事

・報告

- (1) 理事会報告
(2) 実務者連絡会議
(3) その他

・協議題

- (1) 図書館業務のアウトソーシングをどう考えるか

(2) 各県における大学図書館協議会の活性化について

(3) 平成18年度図書系職員採用試験について

(4) その他

私立大学図書館協会 西地区部会
2005（平成17）年度 第1回九州地区協議会

開催日時：2005年4月21日（木）

15：00～17：00

会 場：ホテルニューオータニ熊本

3階「鳳凰東の間」

〒860-0047

熊本市春日1丁目13番1号

TEL 096-326-1111

FAX 096-326-0800

出席者：45館75名（欠席館 3館）

I. 報告事項

(1) 九州地区協議会関係

1. 2004年度第一回、第二回定例幹事会報告

(2) 九州地区大学図書館協議会関係

1. 九州地区大学図書館協議会幹事館・副幹事館会議会務報告

(3) 西地区部会関係

1. 2004年度西地区部会会務報告
2. 2005年度西地区部会事業計画（案）及び予算（案）

3. 2005年度予算の暫定執行

4. 2005年度西地区部会総会開催要領

5. 2005年度館長懇話会の内容

6. 2005年度西地区部会研究会概要

(4) 私立大学図書館協会関係

1. 2004年度協会会務報告
2. 2004年度協会賞・研究助成委員会審査結果報告

3. 国際図書館協力委員会報告

4. 協会ホームページ委員会報告

5. 永年勤続表彰制度検討委員会報告

6. 国公立大学図書館協力委員会報告

7. 2005年度事業計画（案）

8. 国公立大学図書館協力委員会運営費分担金について

9. 2005・2006年度役員及び委員会等委員について

10. 第66回（2005年度）総会・研究大会・永年勤続表彰者

II. 協議事項

(1) 九州地区協議会関係

1. 「九州地区協議会ホームページ及びメンバーリングリストの運用等に係る申し合わせ」（案）について

2. 2005・2006年度九州地区協議会ホームページ更新担当者の選出について

(2) 九州地区大学図書館協議会関係

1. 2005年度九州地区大学図書館協議会の表彰委員館・編集委員館の選出について

III. 承合事項

なし

IV. 確認事項

(1) 外国新聞分担保存について

(2) 九州地区協議会役員校等ローテーション表（2004年度版）及び同表解説について

(3) 九州地区協議会年度別幹事校

(4) 本会関係行事・会議等スケジュール

V. その他

(1) 2005（平成17）年度の当番校・幹事校・役員校等の紹介

私立大学図書館協会 九州地区協議会
2005（平成17）年度第1回定例幹事会

日 時：平成17年5月13日（金）

13：30～15：30

会 場：近畿大学産業理工学部

図書館2階 地域資料室

出席者：7館9名

内 容：

13：30 開会

(1) 開会の言葉

(2) 理事校挨拶

(3) 議長選出

- (4) 資料の確認
- (5) 出席者自己紹介

4. その他

I. 協議事項

- 1. 2005年度九州地区研究会開催（案）について
- 2. 私立大学図書館協会未加盟館への入会勧誘について
- 3. 永年勤続表彰制度の廃止について

II. 報告事項

- 1. 2006年度九州地区大学図書館協議会の開催場所について
- 2. 九州地区協議会定例幹事会の役割について
- 3. その他

**私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会
2005（平成17）年度九州地区研究会**

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 開催日時：2005年9月9日（金）
10：30～17：30 2. 会場：福岡ガーデンパレス（3階「宝満」） 3. 研究会幹事校：近畿大学産業理工学部図書館 4. テーマ：「情報源としての図書館のあり方」 5. 参加者：42館72名 6. 日程： <ul style="list-style-type: none"> 10：00 受付 10：30 研究会開会 10：45 講演「ヨーロッパ和古書事情」
福岡大学人文学部教授 中野 三敏氏 12：00 昼食 13：20 特別報告「国立情報学研究所のNACS IS-CAT/ILLの運営に関する課題およ | <ul style="list-style-type: none"> び文献画像伝送システム（DDS）とILLサービスの新たな環境と学術資料の共同保存に関する地域的な対応について」 九州大学附属図書館利用支援課長 甲斐 重武氏 14：50 休憩 15：10 事例発表「利用者サービスの向上にむけて」
別府大学図書館 吉岡 義信氏 16：00 研究発表「図書館使用学生のマナー向上方策について」
第一薬科大学図書館 田中 昌昭氏 16：50 研究会閉会 17：00 フリートーキングタイム 17：30 懇親会開始 19：00 懇親会終了 |
|---|--|

**私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会
2005（平成17）年度九州地区研究会準備委員会**

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 日時：平成17年11月18日（金）
13：30～15：30 2. 会場：コンパルホール（当番館 日本文理大学図書館）
〒870-0021
大分市府内町1丁目5番38号 3. 進行スケジュール <ul style="list-style-type: none"> 13：30 開会 (1) 開会の言葉：九州東海大学附属図書館 (2) 当番館挨拶：日本文理大学図書館 | <ul style="list-style-type: none"> (3) 議長選出 (4) 資料確認 (5) 出席者自己紹介 参加校：
西日本工業大学、日本文理大学、南九州大学、沖縄大学、九州共立大学、九州東海大学、近畿大学産業理工学部 (6) 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> 1) 2005年度九州地区研究会について（近畿大学産業理工学部） 2) 2006年度九州地区研究会について（日 |
|--|---|

本文理大学)
3) その他

15:30 閉 会

私立大学図書館協会西地区部会九州地区協議会
2005（平成17）年度 第2回定例幹事会

1. 日 時：平成17年12月9日（金）
13:30～16:30
2. 会 場：鹿児島国際大学 図書館
3. 進行スケジュール
13:30 開 会
 - (1) 開会の言葉：九州東海大学
 - (2) 幹事館挨拶：鹿児島国際大学
 - (3) 議長選出
 - (4) 資料確認
 - (5) 出席者自己紹介 参加校：
九州女子大学、中村学園大学、日本文理
大学、沖縄大学、崇城大学、鹿児島国際大
学、九州共立大学、九州東海大学
 - (6) 協議事項
 - 1) 2005年度九州地区協議会総会の報告に
ついて（崇城大学）
 - 2) 2006年度九州地区協議会総会実施計画
（案）について（鹿児島国際大学）
 - 3) 西地区研究会の本部からの研究発表者
発掘について（九州東海大学）
 - 4) その他
 - (7) 確認事項
 - 1) 本会関係の次年度以降の役員校・当番
校について（九州東海大学）
 - 2) その他
- 16:30 閉 会

事務局報告

平成17年度九州地区大学図書館協議会 幹事館・副幹事館会議

平成17年12月12日(月)に、書面回議により開催の結果、意見等の申し出がなかったため、原案の通り承認されました。

平成18年度九州地区大学図書館協議会等実施計画(案)

[鹿屋体育大学附属図書館]

1. 日程

[部会]

平成18年4月20日(木)

13:00~13:30 受付 ※各部会毎に

13:30~17:00 会議

17:00~17:30 休憩

17:30~19:30 懇親会 ※各部会合同

* 時間の割り振りは各部会の判断により設定可能

[総会]

平成18年4月21日(金)

9:30~10:00 受付

10:00~12:00 会議

12:00~13:00 昼食

13:00~14:30 講演

(講演者検討中)

14:30~16:00 会議

2. 会場

4月20日の各部会

城山観光ホテル

(<http://www.shiroyama-g.co.jp/>)

鹿児島市新照院町41番1号

TEL 099-224-2211

(マイクロバス運行: 時間表参照)

- ・国立部会 4階 「カトレア」
- ・公立部会 4階 「ガレリア」
- ・私立部会 4階 「天平の間」
- ・私短部会 4階 「オーキッド」
- ・懇親会 1階 「ガーデンレストラン 【ホルト】」

* 宿泊者: かがしま県民交流センターへ送迎

4月21日の総会

(<http://www.kagoshima-pac.jp/>)

かごしま県民交流センター

鹿児島市山下町14-50

TEL 099-221-6600

・総会 2階 「大ホール」

・講師控室 2階 「大ホール控室」

・資料整理室 3階 「小研修室(1)」

3. 宿泊

[案内施設] 城山観光ホテル

① 部屋の確保

シングル 70室

ツイン 25室

※ 3月末日までリザーブ可

② 宿泊料(1泊朝食付き、税込み)

シングル 9,650円

ツイン 9,150円

4. 経費等

① 会議室借料

・20日の各部会室借料 「城山観光ホテル」 各部会負担

・21日の総会室借料 「県民交流センター」 総会費用充当

その他(看板、生花、マイク等)

総会費用充当

② 資料作成費(経費の節約を行う)

③ 懇親会費 城山観光ホテル 「ガーデンレストラン 【ホルト】」

5,500円(税込み)

④ 21日(総会)の昼食費等

昼食、1,500円(お茶付) [20日の部会受付時に徴収]

5. その他

① 各部会の会議及び各部会合同での懇親会は、城山観光ホテルで行う。

② 各部会の会議室のレイアウトは、それ

ぞれの部会にて行う。

- ③ 総会の会議室のレイアウトは、スクール方式とする。
- ④ 宿泊の予約は、宿泊者が直接ホテルに申し込みを行う。
- ⑤ 城山観光ホテル、県民交流センターのパンフレット及び鹿児島県の観光パンフレットは、各部会を通じて加盟館に送付予定。
- ⑥ 21日の昼食は、総会会場で弁当（お茶付）を配付する。
- ⑦ 総会の議長・副議長・講演者は、おしぼり・お茶（ペットボトル）コップを準備する。
- ⑧ 総会の講演者等は、現在未定。（4部会当番館に推薦依頼中12月16日まで）
- ⑨ 駐車場について
 - ・城山観光ホテル
800台駐車可能であるが、出来るだけ公共交通機関を利用
1泊 無料（ただし、受付にて手続きを要する）
 - ・かごしま県民交流センター
530台駐車可能であるが、出来るだけ公共交通機関を利用
2時間まで無料（ただし、受付にて手続きを要する）
以後1時間200円

その他

1. 講演、協議事項等について
何か意見等がございましたら、お知らせください。
なお、協議事項等は別途当番大学から照

会予定です。

2. 副議長について

総会における議長及び副議長は、平成11年度からの副幹事館制度の発足により、副議長は副幹事館の図書館長により次の順番で執り行われている。

- ・平成11年度 福岡女子大学附属図書館長（公立大学部会副幹事館長）
- ・平成12年度 鹿児島国際大学図書館長（私立大学部会副幹事館長）
- ・平成13年度 沖縄キリスト教短期大学図書館長（私立短大部会副幹事館長）
- ・平成14年度 福岡教育大学附属図書館長（国立大学部会副幹事館長）
- ・平成15年度 宮崎公立大学附属図書館長（公立大学部会副幹事館長）
- ・平成16年度 筑紫女学園大学・短期大学附属図書館長（私立短大部会副幹事館長）
- ・平成17年度 九州東海大学付属図書館長（私立大学部会副幹事館長）

以上の経緯から、平成18年度の副議長については国立大学部会副幹事館の図書館長にお願いしたいと思っております。

3. 表彰委員館・編集委員館の交代について
平成18年度は、表彰委員館・編集委員館の交代ですので各部会で、検討をお願いします。

4. 平成19年度の総会は北部地区福岡県（福岡地区）の当番で、国立大学部会の当番館は、九州大学（福岡県福岡地区）に内諾をいただいておりますので、各部会でも当番館をお決めになるときは、考慮していただくようお願いいたします。

第56回九州地区大学図書館協議会総会記録

日 程 表

1. 期 日 平成17年 4月22日(金)
2. 会 場 ニュースカイホテル 3階 「玉樹A」
〒860-8575 熊本市東阿弥陀寺町2
TEL 096-354-2111
3. 日 程
- | | | |
|-------|----|-----------------------------------|
| 9:00 | | 受付開始 |
| 9:30 | 1 | 開 会 |
| | 2 | 当番館長挨拶 |
| | 3 | 幹事館長挨拶 |
| | 4 | 会議日程・資料の説明 |
| | 5 | 議長・副議長選出 |
| | 6 | 議長・副議長挨拶 |
| | 7 | 新任館長等紹介 |
| | 8 | 表 彰 式 |
| | 9 | 新規加入館の承認 |
| | 10 | 幹事館報告 |
| | 11 | 平成16年度決算及び監査報告 |
| | 12 | 平成17年度予算案 |
| 10:30 | 13 | 国立・公立・私立・私立短期大学部会報告 |
| 12:00 | | 昼 食 |
| 13:00 | 14 | 講 演 |
| | | 講師：(元)九州大学大学院芸術工学研究院
教授 黒澤 節男氏 |
| | | 演題：図書館サービスと著作権 |
| 14:30 | 15 | 協議事項 |
| | 16 | 承合事項 |
| | 17 | 次期役員館の選出 |
| | 18 | 次期当番館挨拶 |
| | 19 | 議長・副議長の解任 |
| 15:30 | 20 | 閉 会 |

出席者名簿 (○は新任者)

【国立大学】

九州工業大学附属図書館

館長 前田 博
事務長 加治 淳一

福岡教育大学附属図書館

館長 工藤 重矩
図書館課長 栗山 平

九州大学附属図書館

館長 今西 裕一郎
事務部長 ○濱崎 修一
図書館企画課長 ○末次 美知夫
コンテンツ整備課長 ○大場 秀穂

佐賀大学附属図書館

学研究協力部長 ○木塚 建一
情報図書館課長 金子 弘康

長崎大学附属図書館

図書館部長 ○北村 明久
情報サービス課長 ○能村 浩次

大分大学附属図書館

館長 大羽 宏一
研究・社会連携部長 ○久保 文門
学術情報課長 山寄 信広

宮崎大学附属図書館

館長 田村 智淳
学研究協力部長 ○金城 孝夫
情報図書館課長 小川 稔

鹿児島大学附属図書館

事務部長 森松 睦雄
情報管理課長 渡邊 俊彦

鹿屋体育大学附属図書館

館長 田口 信教
学術図書情報課長 飯田 昇平

琉球大学附属図書館

館長 ○親川 兼勇
事務部長 ○堀内 眞也
情報サービス課長 能勢 明雄

熊本大学附属図書館

館長 ○中山 仁
学研究協力部長 ○東 雅彦
学術情報課長 松藤 典生
図書館サービス課長 柿本 義行
図書館サービス課副課長 浦田 博臣

出席館 11館 30名

欠席館 なし

【公立大学】

北九州市立大学学術情報総合センター

事務課長 吉野 光夫
学術情報係長 ○里見 公博

九州歯科大学附属図書館

館長 高田 豊
嘱託職員 大峯 紀美恵
司書 多川 綾子

福岡女子大学附属図書館

事務長 松村 信一郎

福岡県立大学附属図書館

館長 ○中野 榮子
事務長 笹田 彰

県立長崎シーボルト大学附属図書館

館長 ○松永 恵子
図書課長 ○池井 大仙

長崎県立大学図書情報センター

図書情報センター所長 ○山田 千香子
図書課長 ○永松 和人
係長 池上 明美
特任職員 清家 由香

熊本県立大学附属図書館
館長 ○松野了二
事務長 ○坂田静也

宮崎県立看護大学附属図書館
館長 赤星誠
主幹兼教務係長 永野宏
主事 川添哲也

大分県立芸術文化短期大学附属図書館
館長 ○吉良伸一
主幹兼図書館管理係長 姫野綾子

鹿児島県立短期大学附属図書館
副館長 前田和平

大分県立看護科学大学附属図書館
館長 甲斐倫明
管理係長 小野永子

沖縄県立看護大学附属図書館
主事 ○玉城いづみ

宮崎公立大学附属図書館
事務長 ○黒木雄三

沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館
館長 ○喜瀬慎仁
副参事 ○玉那覇有仁

出席館 14館 28名
欠席館 なし

【私立大学】

西日本工業大学図書館
図書課長 宗広明則

九州産業大学図書館
館長 ○昆誠一
事務部長 山本正三

西南女学院大学図書館
図書館長 近昭夫

福岡大学図書館
館長 池上龍太郎
図書部次長 ○石田積
学術情報課長 ○中村芳比古

九州国際大学図書館
事務室長 甲斐富美子

九州共立大学附属図書館
図書館長 生地文也
業務課長 ○古賀進

中村学園大学図書館
図書課長 猿渡健一

九州女子大学・短期大学附属図書館
館長 高橋昇
司書 田口美千代
事務員 橋田真弓

西南学院大学図書館
図書情報課長 ○山田能久
図書情報課課長補佐 ○田代二三生

福岡工業大学附属図書館
係長 坂本祥嗣

第一薬科大学図書館
事務職員 田中昌昭

福岡女学院大学図書館
課長 佐田ひろみ

九州情報大学附属図書館
館長 南俊朗

筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館
館長 小木野一
課長 浅井博子

福岡国際大学・福岡女子短期大学図書館
館長 小柳親芳
係長 下条瑞恵

久留米工業大学図書館
室長代理 萩尾文子

久留米大学御井図書館
館長 西土純一
課長 ○熊谷まゆみ

西九州大学附属図書館
図書課長 ○蓑原和秀

活水女子大学・短期大学図書館
館長 宮崎隆広
図書課長 森茂樹

長崎総合科学大学附属図書館
図書課長 伴卓士

長崎外国語大学・短期大学
マルチメディア・ライブラリー
センター長 ○山川欣也
事務室係長 岡村泰子

長崎純心大学早坂記念図書館
館長 ○岩下康夫
室長 岩崎由希子

長崎ウエスレヤン大学附属図書館
司書 植松久子

長崎国際大学図書館
図書課長 飯島芳典

崇城大学図書館
課長補佐 ○新垣まり

九州ルーテル学院大学図書館
館長 ○豊田憲一郎
司書係長 水谷江美子

九州東海大学附属図書館
附属図書館長 ○信國喜八郎
熊本図書館長 ○山崎松男
熊本図書館課長 岡村晴夫
熊本図書館課長補佐 板東弘

熊本学園大学附属図書館
事務部長 ○塚本諄
図書課長 宮原由美子

九州看護福祉大学附属図書館
図書館長 ○江頭洋祐
事務職員 寺井直子

日本文理大学図書館
係長 小平正典

立命館アジア太平洋大学
事務職員 大勢美穂

別府大学附属図書館
事務長 吉岡義信

九州保健福祉大学附属図書館
司書 伊藤倫子

南九州大学・短期大学附属図書館
館長 ○澁澤透
学務部長（兼図書課長） 中村稔

鹿児島国際大学附属図書館
館長 上村俊雄
事務長 藤田淳二
総務係長 山下友司

鹿児島純心女子大学附属図書館
事務職員 満尾厚子

志學館大学図書館
図書課長 木佐貫正

沖縄国際大学図書館
館長 稲福日出夫
次長 ○新川宣安
図書課長 ○金城智子

沖縄大学図書館

館長

田里修

出席館 40館 65名

欠席館 2館

名桜大学附属図書館

館長

吉川安一

情報サービス係長

岸本裕光

【私立短期大学】

九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学図書館

館長

山田千秋

主任司書

小林由憲

別府溝部学園短期大学図書館

館長

田邊勲

九州大谷短期大学図書館

司書

谷川麻樹

鹿児島女子短期大学附属図書館

館長

前原隆鋼

課長

東郷邦照

中九州短期大学附属図書館

館長

田中善典

鹿児島純心女子短期大学図書館

館長

小川孝夫

図書課長

西真知子

東九州短期大学図書館

司書

釘丸知子

出席館 7館 10名

欠席館 3館

第56回九州地区大学図書館協議会総会議事要録

1. 開 会

当番館の熊本大学附属図書館松藤学術情報課長から、開会宣言があった。

2. 当番館長挨拶

当番大学の熊本大学中山附属図書館長から、挨拶があった。

3. 幹事館長挨拶

幹事館の九州大学今西附属図書館長から、挨拶があった。

4. 会議日程説明・資料等の説明

松藤課長から、日程説明及び配布資料の確認があった。

5. 議長選出

「九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則」の第2項により、当番館長である中山熊本大学附属図書館長が選出され、続いて挨拶があった。

6. 副議長選出

議長より、副議長に副幹事館の九州東海大学の山崎熊本図書館長が指名され、承認された。続いて挨拶があった。

7. 新任館長等紹介

今回は新任者が多いため名簿に基づき確認のみ行われた。

8. 表 彰 式

九州地区大学図書館協議会表彰規程に基づき、9名が表彰された。

(1) 勤続期間20年以上の者で退職または転職した者（表彰規程第2条第2項）

(所属機関、氏名の五十音順)

	表彰の区分	大 学 名	氏 名
1	第2条第2号	九州工業大学附属図書館	片岡淳 <small>かた おか すなお</small>
2	〃	九州大学附属図書館	下川享子 <small>しも がわ きまう こ</small>
3	〃	〃	保田秀人 <small>ほ た ひで と</small>
4	〃	長崎大学附属図書館	吉村淳 <small>よし むら すなお</small>

(2) 勤続期間20年に達した者（表彰規程第2条第1項）

	表彰の区分	大 学 名	氏 名
1	第2条第1号	鹿児島大学附属図書館	松尾かおり <small>まつ お かおり</small>
2	〃	九州産業大学図書館	城戸武文 <small>き ど たけ ふみ</small>
3	〃	熊本県立大学附属図書館	中島典子 <small>なか しま のり こ</small>
4	〃	熊本大学附属図書館	川内野祐子 <small>がわうち の ゆう こ</small>
5	〃	長崎大学附属図書館	松尾貴久 <small>まつ お たか ひさ</small>

9. 新規加入館の承認

今年度は該当なし。

10. 幹事館報告

幹事館から、次のとおり報告があった。

平成16年度は新規加入は無し。加盟館数は77館である。内訳は国立11館、公立14館、私

立42館、私立短大10館である。加盟活動を進めていきたいので、広報を願いたい旨、発言があった。

11. 平成16年度決算及び監査報告

幹事館から、決算（案）に基づき報告があり、続いて西南学院大学から監査の結果、収入・支出とも適切な処理がなされている旨の報告がなされた。協議については次のような質疑応答があり、幹事館で検討することで平成16年度の決算は承認された。

「質疑」大分県立看護大学

一般会計と積立会計の区分が解らない。繰越金が無くなると、研修等が開催出来なくなるのではないか。

「回答」九州大学

慣例的にこのように行っている。今までのを承継して決算を行っている。

一本にすると今までの経緯が解らなくなる。以前会費値上げがあった。

5年位はこれで大丈夫であろうと思っている。無くなったら総会に諮る。

「質疑」大分県立看護大学

従来のやり方でなく、理論上一般的に改めたらどうか。

「回答」九州大学

昔からのを調べて、検討させていただきたい。

「意見」長崎大学

積立金は何周年記念とか区切りの事業等多額の金額を見込む場合にこのような積立金を行っている例はある。

12. 平成17年度予算案審議

幹事館から、平成17年度予算案について説明があり、承認された。

13. 国立・公立・私立・私立短期大学部報告

(1) 国立大学部会報告

協議事項について、熊本大学から以下の5件について報告された。

1) 九州地区国立大学における電子ジャーナルの一括共同契約・購入について

電子ジャーナルについて九州地区としての一元化対応等を協議をした結果、各

館において予算の調達や、業者との契約状況等、それぞれに事情を抱えていることから、統一的な対応するにはまだ問題点があることから、今後更に各館において検討を重ねることになった。

2) 国立大学図書館職員の採用について

平成16年度の法人化により全国を7ブロックに分け、5月に一般教養の試験、7月に図書系のみを二次試験を実施しており、本年度もその方向に従って実施することが承認された。

3) 九州地区国立大学図書館協会の代表館選出について

九州大学が選出された。

4) 国立大学図書館協会の運営について

NACSIS-CAT/ILLの課題解決について、国立部会資料（p.24）の紹介と協議の概要が報告された。

5) 九州地区大学図書館協議会等の運営について

① 平成17年度九州地区選出理事候補館の選出について

九州大学が選出された。

② 平成18年度九州地区国立大学図書館総会の当番館について

鹿屋体育大学が選出された。

(2) 公立大学部会報告

長崎県立大学（山田）から以下の承合事項3件について報告された。

1) 承合事項の1

① 学外者の対応について

② 学外者の限定について

③ 学外者と卒業生の取り扱い

④ 貸出冊数

2) 承合事項の2

① 電子ジャーナルの利用について

3) 承合事項の3

① 和雑誌の納入業者の選定方法について

(3) 私立大学部会の報告

崇城大学（新垣）から報告事項3件、協議事項2件、確認事項1件、その他1件の報告があった。

・報告事項 ① 九州地区協議会、九州地区大学図書館協議会関係に

について

② 西地区部会関係について

③ 私立大学図書館協会関係について

- ・協議事項 ① 九州地区協議会関係
- ② 九州地区大学図書館協議会関係
- ・確認事項 各項目について全員が内容を確認した。
- ・その他 2005（平成17）年度以降の役員校等の紹介があった。

(4) 私立短期大学部会の報告

筑紫女学園短期大学部（荻野）から次のような報告があった。

- ・参加は加盟校25館の内、22館、35名の参加者
- ・協議事項の内規の見直しについて、役員会の役員間のローテーション現在3地区、福岡地区、中部地区、南部地区を今年度より2地区、福岡地区、中南部地区とする。
- ・規則等については整備して来年度、正式に決定していくこととする。
- ・承合事項は、請求に関する規程、取り組みについていくつかの館よりご報告いただいております。
- ・次期会長館は、佐賀女子・短期大学附属図書館とする。
- ・研修会は、平成16年度、15年度の短期大学全国研修会のフォローアップとして、DVDを観たり、それから各図書館の具体的な取り組みについてが報告があった。

14. 講演「図書館サービスと著作権」（黒澤節男）

15. 協議事項「大学図書館としての地域貢献、地域連携について」

熊本大学から提案理由が説明され、続いて事例紹介等がなされた。最後に議長から、各大学においての地域貢献、地域連携にあたっては、本日の意見や事例等を参考頂きたい旨、発言があった。

（意見等）

【鹿児島国際大学（藤田）】

- ・私共の大学でも周りも開放、開放という声が上がりに、今検討しているところであるが、今一つ踏み切れないのが大学図書館であることから、やはり学生を大事にしなければいけないというふうを考えている。市民の年齢を制限することや、学生がレポートで必要な時に市民の皆さんにも貸出をしていた場合などどうするかなど。市民の皆さんをこう巻き込んで何かやりたいなというところまでは考えているが、まだ具体的にはまだ詰めていない。

【活水女子大学（森）】

- ・長崎の場合は個別の図書館同志ではなく、しかも新たに和歌山みたいに地域のコンソシアムを作ってやったのではなく、長崎県大学図書館協議会と公共図書館等協議会の会同志で総括的な相互協力に関するガイドラインを締結し、連携した図書館活動をしている。

【熊本学園大学（宮原）】

- ・開館は朝9時から夜11時まで行っており、学外利用者については原則全員フリーである。
- ・日曜日の利用者は、おそらく半数は地域（学外者）の方々ではないか。
- ・地域の学校図書館との関係なら、小学・中学・高校等との連携というより支援ということになるのではないか。
- ・本学では司書過程のコースがあるので、卒業生への就職支援が何かできないか。

【長崎県立大学（山田）】

- ・公立大学の場合、設立の過程からして最も地域貢献、或いは市民サービスといったことの責任が問われるのではないか。
- ・市民図書館や市立図書館の図書館カードと大学図書館のカードとの共用性に取り組んでいるところもあると聞いている。
- ・市民サービス、地域貢献に関しましては、学内利用者に影響が出るのでは困るとか、学内者の為の図書館サービスを優先すべきであるといった、意見がかなり出ていたが、この姿勢だけでは、もう私達の説

明責任は果たせない状況になっている。

- ・したがって市民サービスといったことが、学内サービスの延長として地域貢献が出来る、というような態勢に持っていかなければいけないんじゃないか。

【長崎大学（北村）】

- ・一般の方への利用ということでは、10年前前から一般の方の図書館利用というのは開放している。今では出来るだけ手続きを簡便にするという方向でやっている。
- ・一般市民の方へも図書館ガイダンスを一応やっていこうということを本年度の活動の一つにしている。
- ・多面的な社会貢献の連携ということでは、貴重資料の学内、学外での展示を介してかなり市民の方へのある意味では貢献をしているということになると思う。
- ・図書館主催の公開講座を行っている。毎週土曜日、4回、8コマの講義
- ・民官の企業と連携としては、企業支援図書コーナーを設けており、早い話は企業に歩いて寄付金をいただいて、それで図書を買うということですね。
- ・これらの地域貢献活動等をやっていて大切なのは、地域に対して公開することと合わせて、学内の人にやっぱり理解を得る、そういう複眼的な物の見方をしながら物を進めていくということが、非常に重要になるのではないか。

【鹿屋体育大学（田口）】

- ・企業のネタや就職情報等は、地域住民にとっては欲しい情報ではないか。

【問題点について】

- ・時間外開館時の対応、時間外は派遣職員が対応しているので何かトラブルが生じた場合の対応にどうするか悩んでいる。
- ・駐車場問題について、市民に開放しているながら、来館用の駐車スペースが少ない。
- ・高校生などには閲覧させたくない資料を見せていいのか
- ・外国の例では、寄附のランクにより駐車場等の優遇措置があったり、歓迎しない利用者についてボランティアによる指導（サービス）などがある。また、税金などによる露骨なサービスの差もある。

16. 承合事項

2件の承合事項がある。回答は別冊子のとおり。

17. 次期役員館の選出

1) 幹事館の選出

九州大学が選出された。

2) 監査館の選出

九州産業大学が選出された。

3) 副幹事館、表彰委員館、編集委員館の選出

昨日の各部会の結果等を踏まえて、九州大学から次のとおり説明があり、承認された。

副幹事館は、国立（長崎大学）、公立（熊本県立大学）、私立（九州東海大学）、私立短大は未定

表彰委員館は、国立（琉球大学）、公立（沖縄県立看護大学）、私立（西南女学院大学）、私立短大（鹿児島純心女子短期大学）

編集委員館は、国立（熊本大学）、公立（北九州市立大学）、私立（西日本工業大学）、私立短大（鹿児島純心女子短期大学）

4) 次期当番館

南部地区の鹿屋体育大学が承認された。

18. その他

九州大学から、協議会加盟館の効率的連絡調整のためメーリングリストを作成したい旨の提案あり了承された。提出期限は、5月20日（金）までとなった。

19. 次期当番館挨拶

鹿屋体育大学の田口附属図書館長から、次期当番を引き受ける旨の挨拶があった。

20. 議長・副議長の解任

議長・副議長から、解任の挨拶があった。

21. 閉会

松藤学術情報課長から、閉会の宣言がなされた。

平成16年度決算(案)

一般会計

収入の部		支出の部					
科目	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
会費	462,000	462,000	6,000円×77館	総会運営費	300,000	300,000	当番館：福岡教育大学
協議会誌代	128,800	127,200	46号(2003) 800円×159部	協議会誌発行費	200,000	151,200	47号(2004) 200部
広告掲載料	200,000	145,097		事務費	55,000	32,180	通信費、振り込み手数料等
				積立金会計へ繰入	235,800	250,917	総会関係研修事業補助
小計	790,800	734,297		小計	790,800	734,297	

積立金会計

収入の部		支出の部					
科目	予算	決算	備考	科目	予算	決算	備考
前年度繰越金	606,042	606,042		表彰経費	110,000	106,827	21名(1号該当10名、2号該当11名)
預金利子	20	10	5円×2回	研修会経費	100,000	90,000	総会講演謝金等
一般会計から繰入	235,800	250,917		研修会補助費	270,000	180,000	各県協議会(6地区)研修経費補助
				次年度繰越金	361,862	480,142	
小計	841,862	856,969		小計	841,862	856,969	

総計	1,632,662	1,591,266		総計	1,632,662	1,591,266	
----	-----------	-----------	--	----	-----------	-----------	--

平成17年3月25日

監査館 西南学院大学図書館

図書館情報課長 山田能久 監査済

平成17年度予算(案)

一般会計

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
会費	462,000	総会運営費	300,000
協議会誌代	125,600	協議会誌発行費	200,000
広告掲載料	300,000	事務費	55,000
		積立金会計へ繰入	332,600
小計	887,600	小計	887,600

積立金会計

収入の部		支出の部	
科目	予算	科目	予算
前年度繰越金	480,142	表彰経費	60,000
預金利子	10	研修会経費	100,000
一般会計から繰入	332,600	研修会補助費	270,000
		次年度繰越金	382,752
小計	812,752	小計	812,752
総計	1,700,352	総計	1,700,352

九州地区大学図書館協議会会則

昭和25年11月27日施行
昭和32年9月12日改正
昭和41年6月2日改正
昭和51年4月23日改正
昭和55年5月9日改正
平成9年4月25日改正
平成10年4月24日改正

(名 称)

第 1 条 本会は九州地区大学図書館協議会と称する。

(会 員)

第 2 条 本会は別に定める資格を有する九州地区の大学図書館をもって組織する。

会員は大学をもって一会員とする。

本会に入会するには、所定の入会申込書を提出し、総会の議決を経るものとする。

(目 的)

第 3 条 本会は会員の緊密な連絡と協力によって、大学図書館の施設、管理及び運営等の健全な進歩発達をはかり、会員相互の親睦をはかることを目的とする。

(事 業)

第 4 条 本会は前条の目的を達するためにつきの事業を行う。

1. 図書館の研究・調査に関する事項
2. 研究会・講習会等の開催に関する事項
3. 日本図書館協会等の連絡提携に関する事項
4. 学術図書文献の調査及び総合目録の調整に関する事項
5. 学術図書文献の収集、保存及び活用に関する事項
6. その他必要とする事項

(役 員)

第 5 条 本会に幹事館、副幹事館及び監査館を置く。

幹事館は会務を総括し、本会を代表する。

副幹事館は、幹事館とともに会務を処理する。

監査館は、会計を監査する。

第 6 条 幹事館は、総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

副幹事館は、国立大学、公立大学、私立大学及び私立短期大学からそれぞれ1館を総会で互選し、その任期は2年とする。但し、再選を妨げない。

監査館は、総会で互選し、その任期は1年とする。但し、再選できない。

(事 務 所)

第 7 条 本会の事務所は幹事館内におく。

(会 議)

第 8 条 本会は毎年 1 回総会を開催する。但し必要に応じ会員の 3 分の 1 以上から請求があった場合は、臨時総会を開くことができる。

第 9 条 総会の運営は、輪番に定められた当番館が幹事館と協議してこれに当たる。

第 10 条 総会は次の事項を行う。

1. 事業計画
2. 決算の承認
3. 予算の決定
4. 幹事館、副幹事館及び監査館の選任及び当番館の決定
5. その他必要なる事項の決定

第 11 条 総会の票決権は 1 大学につき 1 票とし、議決は多数決による。
可否同数の時は幹事館の決するところによる。

(会 計)

第 12 条 本会の経費は会費その他をもってあてる。

第 13 条 会費は年額 6,000 円とし、毎会計年度始めに幹事館に納入するものとする。

第 14 条 本会の予算は毎年総会の議決を経て決定し、決算は監査を受け次の総会において承認を得なければならない。

第 15 条 本会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

(会則変更)

第 16 条 本会則の変更は総会にはからなければならない。その決定には出席会員の 3 分の 2 以上の賛成を必要とする。

九州地区大学図書館協議会総会運営に関する細則

昭和 32 年 9 月 12 日 決定

昭和 37 年 10 月 2 日 改正

昭和 48 年 5 月 11 日 改正

昭和 53 年 5 月 12 日 改正

平成 11 年 4 月 23 日 改正

1. 本協議会総会の運営は簡素を尊重し、輪番に当番を引受け易くするためにこの細則を定める。
2. 総会の議長は当番館の館長とする。
3. 議長は副議長を指名することができる。
4. 当番館は幹事館及び副幹事館と協議の上、2 ヶ月前に会員宛日程・場所等を通知し、出席者の職氏名及び協議事項・承合事項の提出を求める招請状を送ること。
但し、緊急を要する臨時総会等の場合はこの限りでない。
5. 当番館は協議事項をまとめ、議題として提案理由、又は簡単な説明を付して、出席者に配付し、調査研究の余地を充分与えるように努めること。
6. 当番館は総会の議事録を作成し、会員に配付するものとする。

7. 幹事館及び副幹事館は当番館と協力して、総会で決議された要求事項を貫徹するよう努力する。
8. 総会と同時に研修会を開催し、研究発表者は九州地区内の大学図書館職員とし3年位に1回の割合で、文部省・国会図書館或は他地区の大学より最適任者を招聘する。
9. 会員以外の出席を許すことがある。但し票決権はない。
10. 当番館は加盟館の所属県を次の三地区に分け、地区ごとに等しく持ち廻る。

福岡地区	福岡県
中部地区	長崎県、佐賀県、熊本県、大分県
南部地区	鹿児島県、宮崎県、沖縄県
11. 総会の経費は主として会費及び出席者から徴収する金員より支出し、総会の議決を経た予算案によって実行するものとする。
12. 研修会の講師招聘に要する旅費、謝礼等の費用は、毎年会費の内から積立てて支弁する。

九州地区大学図書館協議会入会に関する細則

昭和32年9月1日施行

平成9年4月25日改正

1. 本協議会へ入会を希望する大学図書館（以下「入会申込館」という。）は、最寄りの本協議会会員の紹介書（別記様式1）により、入会申込書（別記様式2）を、総会の3ヶ月前までに幹事館に提出する。
2. 紹介を依頼された会員は、総会において入会申込館の概略を説明する。
3. 入会資格の基準は下記のとおりとする。
 - (1) 大学又は短期大学の図書館であること。
 - (2) 本協議会の目的及び事業に賛同し、熱意が十分認められること。
4. 入会申込館は、総会当日は、入会承認まではオブザーバーとして出席することができる。

九州地区大学図書館協議会入会紹介書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大 学 名

図 書 館 名

図 書 館 長 名

公 印

下記の図書館は、本協議会の目的及び事業に賛同され、また熱意が十分認められますので、本協議会への入会を紹介します。

記

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 図 書 館 名：
4. 図 書 館 長 名：
5. 所 在 地：

九州地区大学図書館協議会入会申込書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会 殿

大 学 名

図 書 館 名

図 書 館 長 名

公 印

貴協議会の趣旨に賛同し、平成 年度からの入会を申し込みます。

1. 学校（法人）名：
2. 大 学 名：
3. 大 学 設 置 年：
4. 学 生 数：
5. 図 書 館 名：
6. 所 在 地：
（電話、FAX番号）
7. 図 書 館 長 名：
8. 図 書 館 の 概 要：（別紙）
9. 紹 介 館 名：

図 書 館 の 概 要

図 書 館 名			
事務責任者職・氏名	(電話番号)		
図 書 館 職 員 数	人 (内、司書数 人)		
図 書 館 延 床 面 積	㎡	閱 覧 座 席 数	席
蔵 書 冊 数	冊 (内 和書 冊、洋書 冊)		
年 間 受 入 図 書 冊 数	冊	年 間 受 入 雑 誌 種 数	種
年 間 開 館 日 数	日	通 常 開 館 時 間	時 分 ~ 時 分
土 曜 開 館	1 実施 2 未実施		
日 曜 祝 日 開 館	1 実施 2 一部実施 3 未実施		
奉 仕 対 象 学 生 数	人	奉 仕 対 象 教 職 員 数	人
年 間 貸 出 冊 数	冊		
図 書 館 相 互 協 力	図 書 貸 借	1 実施 2 未実施	
同 上	文 献 複 写	1 実施 2 未実施	
学 外 者 へ の サ ー ビ ス	1 実施 2 未実施		
コ ン プ ュ ー タ の 導 入	1 導入済 2 未導入		
コ ン プ ュ ー タ の 適 用 業 務	1 貸出 2 図書受入 3 図書整理 4 雑誌管理 5 OPAC		
ネ ッ ト ワ ー ク 環 境	1 学内LAN接続済 2 インターネット接続済		
国 立 情 報 学 研 究 所 と の 接 続	1 接続 (1 NACSIS-CAT/ILL 2 NACSIS-IR 3 その他) 2 未接続		

九州地区大学図書館協議会誌編集に関する内規

平成2年4月20日施行

平成5年4月23日改正

平成11年4月23日改正

1. (1) 本協議会誌は、総会記事のほか各部会報告、ニュース等を掲載し、九州地区大学図書館間の情報誌としての機能を果たすこととする。
(2) 本協議会誌編集のために編集委員会を設ける。
2. (1) 編集委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された編集委員館で構成する。
(2) 幹事館及び総会当番館は、業務上の必要から編集委員館として参加することとし、上記2- (1)の編集委員館を兼ねることができる。
(3) 各部会の編集委員館は、幹事館の近隣地区から選出されることが望ましい。
(4) 編集委員館の任期は1年とし再任を妨げない。
3. (1) 編集委員館は、それぞれの所属する各部会の記事の提出を担当する。
(2) 総会当番館は、総会記事を担当する。
(3) 幹事館は、編集に関する事務を担当する。
4. 本協議会誌発行のため、印刷代、送料、編集会議費、原稿執筆等謝礼は、毎年会費の内から支弁する。
5. 本協議会誌に掲載された論文・記事は、九州地区大学図書館協議会ホームページに掲載することとする。

九州地区大学図書館協議会表彰規程

(目 的)

第1条 この規程は、九州地区大学図書館協議会（以下「協議会」という。）に加盟の大学図書館職員を表彰するため、必要な事項を定めることを目的とする。

(表彰を受ける者)

第2条 表彰は、次の各号の1に該当し、かつ勤務成績が良好である者について行う。

- (1) 勤務期間20年に達した者
- (2) 勤務期間20年以上の者で退職または転職した者
- (3) 図書館学の研究、調査等にすぐれた業績のあった者

(表彰状の授与)

第3条 表彰は、協議会が別紙様式による表彰状を授与することによって行う。

2 第2条に該当する者については、前項の表彰状にあわせて記念品を贈呈することができる。

(被表彰者の選考)

第4条 表彰をうける者は、所属図書館長の推薦（別紙様式による）に基づき、表彰委員会が選考し、協議会の総会の承認を経て決定する。

(表彰委員会)

第5条 表彰委員会は、国立、公立、私立及び私立短大の各部会からの推薦により選出された表彰委員館各1館で構成し、任期は1年として再任を妨げない。

(表彰の日)

第6条 表彰は、協議会の総会において行う。

(勤務期間の計算)

第7条 第2条第1号および第2号の勤務期間は、国公立大学図書館およびその他の図書館に在職し、10年以上を加盟の大学図書館に勤務したものでなければならない。

2 次の各号に掲げる期間は、勤務期間から除算する。

(1) 休職の期間（公傷病の期間は除く）

(2) 懲戒処分により停職された期間

(雑 則)

第8条 この規程に定めるもののほか、表彰の実施に関する必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年5月9日から施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月25日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月23日から施行する。

文書番号

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会幹事館

〇〇大学附属図書館長

殿

〇〇大学（附属）図書館長

○ ○ ○ ○

平成 年度表彰者の推薦について

下記の者を本年度の総会における被表彰者として推薦しますのでよろしくお取り計らい願います。
なお、別紙のとおり表彰者調書を提出します。

表 彰 者 調 書

大学（附属）図書館

職名		ふりがな 氏名		生年月日	明 大 年 月 日 昭
表彰の区分	第2条第1号 第2条第2号 第2条第3号				
勤務成績					
第6条第2項第2号該当の有無					
履 歴 事 項					
年 月 日	勤 務 内 容 等			勤 務 期 間	
				加盟館期間	その他の期間
～				年 月 日	年 月 日
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
～					
計					
				合計	年 月 日

- 注 (1) 勤務期間の計算は暦日数によるものとし日を月に換算するときは30日をもって1月とすること。
- (2) 第7条第2項各号の除算期間は朱書すること。
- (3) 第2条第3号に該当する場合は、「勤務成績」欄は「業績」と書きかえて記入し、参考となる資料等を添付すること。

表彰状様式(1)第2条第1号および第2号該当者

表 彰 状

殿

あなたは 年のながい間大学図書館関係の業務に精励されその功労はまことに大きいもの
があります。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州大学図書館協議会

表彰状様式(2)第2条第3号該当者

表 彰 状

殿

あなたは図書館学の研究調査に精励されその向上発展に貢献されたことはまことに顕著なものがあり
ます。

よってここに記念品を贈り表彰します。

平成 年 月 日

九州大学図書館協議会

研修会の補助に関する申合せ

平成6年9月20日決定
平成7年9月1日改正
平成8年4月24日改正
平成9年4月25日改正
平成10年4月25日改正
平成15年4月25日改正
九州地区大学図書館協議会

地区の大学図書館活動を発展させるため、研修会、講演会等（以下「研修会」という。）の経費を補助する申合せ事項を次のとおり定める。

1. 研修会経費を補助する対象は、九州地区大学図書館協議会に加盟している大学図書館が主体となって構成する県又は地区単位の組織とし、別紙のとおりとする。
2. 補助する経費の金額は、年間1組織に対して3万円を限度とする。
3. 研修会に要する経費の補助を受けようとするときは、別記様式による申請書を幹事館に提出するものとする。
4. 経費の補助を受けた組織は、本協議会誌に活動報告を掲載するものとする。
5. 経費の支出は、積立金会計を適用する。
6. 新たな組織から経費の補助の申し出があったときは、総会において承認を得るものとする。
7. これに関する事務は、幹事館で行う。

別 紙

経費を補助する県又は地区単位の組織

1. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（北部地区）
2. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（福岡地区）
3. 福岡県・佐賀県大学図書館協議会（南部地区）
4. 長崎県大学図書館協議会
5. 熊本県大学図書館協議会
6. 大分県大学図書館協議会
7. 宮崎県大学図書館協議会
8. 鹿児島県大学図書館協議会
9. 沖縄県大学図書館協議会

別記様式

平成 年度九州地区大学図書館協議会・研修会経費補助申請書

平成 年 月 日

九州地区大学図書館協議会
幹事館

殿

組 織 名
代 表 者
(所属大学)

九州地区大学図書館協議会の研修会経費の補助を受けたく、下記のとおり申請します。

記

研 修 会 名 及 び 内 容	
開 催 期 間	自 平成 年 月 日() 時 分 至 平成 年 月 日() 時 分
開 催 場 所	
参 加 機 関 数	
参 加 人 数	
必 要 経 費 (具体的に)	ア. 講師謝金 _____ イ. 資料代金 _____ ウ. 会場借上費 _____ エ. その他 _____ 合 計 _____
連 絡 担 当 者	氏名 _____ 職 _____ 電話 _____ (内線)

※ 研修内容は、大学図書館活動を促進させるテーマであること。

副幹事館の役割

平成10年 8月31日

幹事館・副幹事館会議

1 通常時

1. 年度の事業・活動についての立案・協議
2. 所属部会との連絡調整と情報の提供
3. 入会の勧誘等、協議会の広報（特に所属部会の各大学に対して）
4. ホームページ充実のための提言等、意見具申

2 会誌発行時

各部会から編集委員館は選出されているため、特に役割はないと思うが

- ・ 所属部会の情報（研究発表等、原稿情報）の提供等

3 総会時

1. 副議長職に館長を選出等、当番館及び幹事館と協力しての総会運営
2. 前日決定された各部会における各役員館の事務局への連絡
3. 総会終了後、当番館作成の議事録の確認

4 その他

- ・ 別段ある場合は、適宜副幹事館から提案

九州地区大学図書館協議会ホームページの運用について

平成10年 8月31日

幹事館・副幹事館会議

1. 九州地区大学図書館協議会ホームページ（以下、「ホームページ」という。）は、九州大学附属図書館のサーバに置く。

（URL <http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/kyogikai/kyutiku.htm>）

2. ホームページの管理、維持（デザイン・構成を含む）は、当分の間、九州地区大学図書館協議会事務局（以下、「事務局」という。）が行う。
3. ホームページに掲載する事項は当面以下のものとし、それぞれ以下の館が作成する。

・トピックス&NEWS

加盟館、各設置部会毎協議会、各県毎協議会等からの原稿に基づき事務局が作成
総会議事録は総会当番館が原稿を作成

- ・加盟館一覧 事務局が作成
- ・役員館一覧 事務局が作成
- ・当番館一覧 事務局が作成

- ・九州地区大学図書館協議会誌
事務局が作成（論文等執筆者に対しては原稿依頼時にホームページ掲載方の承諾を得るものとする。）
 - ・地区内の図書館活動
各設置部会毎の図書館協議会等及び各県毎協議会が作成
 - ・各種関連資料集 事務局が作成
 - ・関連サイトへのリンク集 事務局が作成
 - ・地区内各館の相互利用案内 各加盟館からの原稿に基づき事務局が作成
 - ・フォーラムページ
協議会が設定するテーマに対する加盟館からの自由な意見・回答のページで、投稿は直接電子メールによる
4. 「3.」のほか、ホームページに文書・記事等の掲載を希望する副幹事館及び加盟館は、HTML形式等で原稿を作成し、事務局に送付するものとする。
事務局は内容を確認のうえ、ホームページに掲載する。

九州地区大学図書館協議会加盟館一覽

18. 1. 30 現在

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
国 立	九州工業大学 附属図書館 (館長 前田 博, 事務長 加治淳一)	804-8550	北九州市戸畑区仙水町1の1	093-884-3072 (093-884-3075)
	福岡教育大学 附属図書館 (館長 工藤重矩, 図書館課長 栗山 平)	811-4192	宗像市赤間文教町1番5号	0940-35-1257 (0940-35-1705)
	九州大学 附属図書館 (館長 有川節夫, 事務部長 濱崎修一)	812-8581	福岡市東区箱崎6丁目10の1	092-642-2325 (092-642-2330)
	佐賀大学 附属図書館 (館長 小倉幸雄, 学術研究協力部長 木塚建一)	840-8502	佐賀市本庄町1	0952-28-8902 (0952-28-8909)
	長崎大学 附属図書館 (館長 岡林隆敏, 図書館部長 北村明久)	852-8521	長崎市文教町1の14	095-819-2193 (095-819-2196)
	熊本大学 附属図書館 (館長 中山 仁, 学術研究協力部長 東 雅彦)	860-8555	熊本市黒髪2丁目40の1	096-342-2213 (096-342-2210)
	大分大学 附属図書館 (館長 伊藤哲郎, 研究・社会連携部長 久保文門)	870-1192	大分市大字旦野原700	097-554-7482 (097-554-7488)
	宮崎大学 附属図書館 (館長 永田雅輝, 学術研究協力部長 金城孝夫)	889-2192	宮崎市学園木花台西1丁目1	0985-58-7759 (0985-58-2896)
	鹿児島大学 附属図書館 (館長 早川勝光, 事務部長 森松睦雄)	890-0065	鹿児島市郡元1丁目21の35	099-285-7415 (099-285-7413)
鹿児島体育大学 附属図書館 (館長 田口信教, 学術図書情報課長 飯田昇平)	891-2393	鹿児島市白水町1	0994-46-4871 (0994-46-4157)	
琉球大学 附属図書館 (館長 親川兼勇, 事務部長 堀内真也)	903-0214	中頭郡西原町字千原1	098-895-8153 (098-895-8154)	
公 立	北九州市立大学 学術情報総合センター (所長 棚次奎介, 課長 吉野光夫)	802-8577	北九州市小倉南区北方4丁目2の1	093-964-4040 (093-964-4038)
	九州歯科大学 附属図書館 (館長 高田 豊, 事務長 相川和之)	803-8580	北九州市小倉北区真鶴2丁目6の1	093-582-1131 (093-583-7388)
	福岡女子大学 附属図書館 (館長 田坂憲二, 事務長 松村信一郎)	813-8529	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1の1	092-661-2411 (092-661-2416)
	福岡県立大学 附属図書館 (館長 中野榮子, 事務長 笹田 彰)	825-8585	田川市伊田4395	0947-42-1760 (0947-42-9457)
	県立長崎シーボルト大学 附属図書館 (館長 松永恵子, 課長 池井大仙)	851-2195	長崎県長与町まなび野1-1-1	095-813-5075 (095-813-5224)
	長崎県立大学 図書情報センター (センター長 山田千香子, 図書課長 永松和人)	858-8580	佐世保市川下町123	0956-47-5958 (0956-26-2100)
	熊本県立大学 附属図書館 (館長 松野了二, 事務長 坂田静也)	862-8502	熊本市月出3丁目1番100号	096-383-2929 (096-383-2999)
	大分県立芸術文化短期大学 附属図書館 (館長 吉良伸一, 管理係長 姫野綾子)	870-0833	大分市上野丘東1の11	097-545-4235 (097-545-0543)
	大分県立看護科学大学 附属図書館 (館長 甲斐倫明, 管理係長 小野永子)	870-1201	大分県大分市大字廻栖野2944-9	097-586-4330 (097-586-4373)
	宮崎公立大学 附属図書館 (館長 田中 薫, 事務長 黒木雄三)	880-8520	宮崎市船塚1丁目1番地2	0985-20-4814 (0985-20-4806)
	宮崎県立看護大学 附属図書館 (館長 赤星 誠, 教務課長 大吉聖一郎)	880-0929	宮崎市まなび野3-5-1	0985-59-7756 (0985-59-7773)
	鹿児島県立短期大学 附属図書館 (館長 中山一樹, 副館長 前田和平)	890-0005	鹿児島市下伊敷1丁目52番1号	099-220-1111 (099-220-1115)

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
公立	沖縄県立看護大学 附属図書館 (館長 栗栖瑛子, 事務責任者 盛島明哲)	902-0076	那覇市与儀 1-24-1	098-833-8806 (098-833-5134)
	沖縄県立芸術大学 附属図書・芸術資料館 (館長 喜瀬慎仁, 副参事 玉那覇有仁)	903-8602	那覇市首里当蔵町 1-4	098-882-5038 (098-882-5068)
私立	西日本工業大学 図書館 (館長 高見敏志, 図書評価室長 宗広明則)	800-0394	福岡県京都市都荏田町新津 1-11	0930-23-7729 (0930-24-7900)
	西南女学院大学 図書館 (館長 近 昭夫, 課長 山田 寛)	803-0835	北九州市小倉北区井堀 1丁目3の5	093-583-5959 (093-592-1885)
	九州国際大学 図書館 (館長 安元正也, 事務室長 甲斐富美子)	805-8512	北九州市八幡東区平野 1丁目6の1	093-671-8919 (093-671-8920)
	九州共立大学 附属図書館 (館長 生地文也, 業務課長 古賀 進)	807-8585	北九州市八幡西区自由ヶ丘 1の8	093-693-3036 (093-603-2260)
	※九州女子大学・九州女子短期大学 附属図書館 (館長 高橋 昇, 図書館次長 本田靖丸)	807-8586	北九州市八幡西区自由ヶ丘 1-1	093-693-3124 (093-603-0494)
	福岡工業大学 附属図書館 (館長 野田 稔, 事務長 武 哲也)	811-0295	福岡市東区和白東 3-30-1	092-606-0691 (092-605-1080)
	福岡女学院大学 図書館 (館長 増田 榮, 課長 佐田ひろみ)	811-1313	福岡市南区日佐 3丁目42の1	092-581-1492 (092-585-7059)
	九州産業大学 図書館 (館長 昆 誠一, 事務部長 山本正三)	813-8503	福岡市東区松香台 2丁目3の1	092-673-5382 (092-673-5926)
	福岡大学 図書館 (館長 池上龍太郎, 次長 石田 積)	814-0180	福岡市城南区七隈 8丁目19の1	092-871-6631 (092-865-3794)
	中村学園大学 図書館 (館長 吉岡慶子, 図書課長 猿渡健一)	814-0198	福岡市城南区別府 5丁目7の1	092-851-2573 (092-841-7762)
	西南学院大学 図書館 (館長 後藤新治, 事務次長 篠崎 珣)	814-8511	福岡市早良区西新 6丁目2の92	092-823-3426 (092-823-3480)
	第一薬科大学 図書館 (館長 原 千高, 事務職員 田中昌昭)	815-8511	福岡市南区玉川町22の1	092-541-0161 (092-553-5698)
	九州情報大学 図書館 (館長 南 俊朗, 図書館司書 藤 理恵子)	818-0117	太宰府市宰府 6丁目3番1号	092-928-4000 (092-928-3200)
	※筑紫女学園大学・短期大学部 附属図書館 (館長 小木野一, 課長 関 彰)	818-0192	太宰府市石坂 2丁目12の1	092-925-9910 (092-925-3318)
	※福岡国際大学・福岡女子短期大学 図書館 (館長 小柳親芳, 主査 下条瑞恵)	818-0193	太宰府市五条 4丁目16-1	092-922-3604 (092-922-3596)
	久留米工業大学 図書館 (館長 深野 徹, 室長代理 萩尾文子)	830-0052	久留米市上津町2228	0942-22-2345 (0942-22-2385)
	久留米大学 附属図書館 (館長 西土純一, 課長 熊谷まゆみ)	839-8502	久留米市御井町1635	0942-44-4015 (0942-43-0348)
	西九州大学 附属図書館 (館長 香川せつ子, 課長 簗原和秀)	842-8585	神埼郡神埼町大字尾崎4490-9	0952-52-4191 (0952-53-7869)
	※活水女子大学・短期大学 図書館 (館長 宮崎隆広, 課長 森 茂樹)	850-8515	長崎市東山手町 1の50	095-822-4107 (095-823-3701)
	長崎総合科学大学 附属図書館 (館長 高 允宝, 課長 伴 卓士)	851-0193	長崎市網場町536	095-838-5140 (095-838-2072)
長崎外国語大学・長崎外国語短期大学 教育研究 メディアセンター マルチメディア・ライブラリー (センター長 山川欣也, 事務長 佐田忠鴻)	851-2196	長崎市横尾 3-15-1	095-840-2005 (095-840-2205)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号	
私	※長崎純心大学 早坂記念図書館 (館長 岩下康夫, 事務室長 岩崎由希子)	852-8558	長崎市三ツ山町235	095-846-0084 (095-845-4279)	
	長崎ウエスレヤン大学 附属図書館 (館長 田中英樹, 司書 植松久子)	854-0081	諫早市栄田町1057	0957-26-8203 (0957-26-2063)	
	長崎国際大学 図書館 (館長 平井誠也, 図書課長 飯島芳典)	859-3298	佐世保市ハウステンボス町2825-7	0956-20-5560 (0956-39-4894)	
	崇城大学 図書館 (館長 梶谷 尚, 主任 小野泰弘)	860-0082	熊本市池田4丁目22の1	096-326-3111 (096-326-3000)	
	九州ルーテル学院大学 図書館 (館長 豊田憲一郎, 司書係長 水谷江美子)	860-8520	熊本市黒髪3丁目12-16	096-343-2494 (096-343-0354)	
	熊本学園大学 附属図書館 (館長 宇野史郎, 部長 塚本 諄)	862-8680	熊本市大江2丁目5の1	096-364-5161 (096-362-5967)	
	九州東海大学 附属図書館 (館長 信國喜八郎, 図書課長 岡村晴夫)	862-8652	熊本市渡鹿9-1-1	096-382-1141	
	九州看護福祉大学 附属図書館 (館長 江藤洋祐, 事務職員 寺井直子)	865-0062	玉名市富尾888	0968-75-1840 (0968-75-1873)	
	日本文理大学 図書館 (館長 川建和雄, 部長 藤原靖也)	870-0397	大分市大字一木1727	0975-92-1600 (0975-93-2071)	
	立命館アジア太平洋大学ライブラリー (センター長 Eades, Jeremy S, 課長 田尻 実)	874-8577	別府市十字原1-1	0977-78-1140 (0977-78-1141)	
	別府大学 附属図書館 (館長 井上富江, 事務部長 岡田 茂)	874-8501	別府市大字北石垣82	0977-66-9633 (0977-66-9696)	
	九州保健福祉大学 附属図書館 (館長 森 憲正)	882-8508	延岡市吉野町1714-1	0982-23-5562 (0982-23-5560)	
	宮崎産業経営大学 附属図書館 (館長 渡辺綱纜, 課長 中村哲也)	880-0931	宮崎市古城町丸尾100	0985-52-3205 (0985-50-4699)	
	南九州大学・南九州短期大学 図書館 (館長 澁澤 透, 課長 中村 稔)	880-0032	宮崎市霧島5-1-2	0985-83-3430 (0985-83-3431)	
	※宮崎学園 図書館 宮崎国際大学・宮崎女子短期大学 (館長 安藤嘉章, 事務長 長友聖次)	889-1605	宮崎郡清武町加納1415	0985-85-1410 (0985-85-8189)	
	立	鹿児島国際大学 附属図書館 (館長 上村俊雄, 事務長 藤田淳二)	891-0191	鹿児島市下福元町8850	099-261-3211 (099-261-1198)
		鹿児島純心女子大学 附属図書館 (館長 犬塚孝明, 図書課長 森山 学)	895-0011	鹿児島県薩摩川内市天辰町2365	0996-23-5311 (0996)23-5030
		志学館大学 図書館 (館長 十島雍藏, 課長 木佐貫 正)	899-5194	鹿児島県始良郡隼人町内1904-1	0995-43-1111 (0995-43-1114)
		沖縄国際大学 図書館 (館長 稲福日出夫, 次長 新川宣安)	901-2701	宜野湾市宜野湾2丁目6番1号	098-892-1111 (098-893-3274)
沖縄大学 図書館 (館長 田里 修, 事務長 嘉数和子)		902-8521	沖縄県那覇市宇国場555	098-832-5577 (098-834-1127)	
沖縄キリスト教学院 図書館 (館長 島袋忠雄, 主任 外間きみ子)		903-0207	沖縄県中頭郡西原町字翁長777	098-946-1236 (098-946-1237)	
名桜大学 附属図書館 (館長 吉川安一, 図書課長 山田義孝)		905-8585	沖縄県名護市字為又1220-1	0980-52-4274 (0980-51-1065)	

	館名	郵便番号	所在地	電話番号 ()内はFAX番号
私 立 短 大	九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 図書館 (館長 山田千秋, 主任司書 小林由憲)	803-8511	北九州市小倉北区下津5の1の1	093-561-3541 (093-561-9728)
	九州造形短期大学 図書館 (館長 時 詩津男, 事務部長 荒川博一)	813-0004	福岡市東区松香台2丁目3の2	092-673-5188 (092-673-5199)
	聖マリア学院短期大学 図書館 (館長 熊井昭彦, 司書 山口真由美)	830-8558	久留米市津福本町422番地	0942-35-7271 (0942-37-1138)
	九州大谷短期大学 図書館 (館長 斉藤英雄, 情報課長 坂川和彦)	833-0054	福岡県筑後市蔵数495-1	0942-53-9893 (0942-53-9893)
	中九州短期大学 附属図書館 (館長 田中善典, 事務職 段原佳子)	866-8502	八代市平山新町4438	0965-34-7651 (0965-43-7117)
	東九州短期大学 図書館 (館長 松下義雄, 事務部長 山本博宣)	871-0014	中津市大字一ツ松211	0979-22-2425 (0979-25-3935)
	別府溝部学園短期大学 図書館 (館長 田邊 勲, 司書 宗岡千尋)	874-8567	大分県別府市野田78	0977-66-0224 (0977-67-8133)
	鹿児島女子短期大学 附属図書館 (館長 前原隆綱, 図書課長 東郷邦照)	890-8565	鹿児島市紫原1丁目59の1	099-254-9191 (099-254-5914)
	鹿児島純心女子短期大学 図書館 (館長 小川孝夫, 課長 西 眞知子)	890-8525	鹿児島市唐湊4丁目22の1	099-253-2677 (099-254-5247)

※印は、大学・短期大学を併せて1加盟館

九州地区大学図書館協議会役員館一覧

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和48年度 (24)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	福岡教育大学 長崎国際経済大学 福岡大学	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	
昭和49年度 (25)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	九州工業大学 長崎国際経済大学 西南大学	九州芸術工科大学 長崎県立女子短大 福岡大学	
昭和50年度 (26)	九州大学	西南大学	国 公 私	佐賀大学 北九州大学 久留米大学	長崎大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和51年度 (27)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 九州歯科大学 久留米大学	大分大学 長崎国際経済大学 西南大学	
昭和52年度 (28)	九州大学	福岡大学	国 公 私	福岡教育大学 福岡女子大学 西南大学	鹿児島大学 熊本女子大学 九州産業大学	
昭和53年度 (29)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	佐賀大学 長崎県立女子短大 西南大学	九州芸術工科大学 長崎国際経済大学 久留米大学	
昭和54年度 (30)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 北九州大学 九州産業大学	佐賀大学 九州歯科大学 久留米大学	
昭和55年度 (31)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎大学 福岡社会保育短大 西南大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 熊本商科大学	
昭和56年度 (32)	九州大学	西南大学	国 公 私	福岡教育大学 熊本女子大学 九州産業大学	熊本大学 鹿児島県立短大 福岡大学	
昭和57年度 (33)	九州大学	福岡大学	国 公 私	長崎大学 北九州大学 八幡大学	鹿児島大学 福岡女子大学 熊本商科大学	
昭和58年度 (34)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	琉球大学 福岡社会保育短大 鹿児島経済大学	宮崎医科大学 鹿児島県立短大 八幡大学	
昭和59年度 (35)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 中村学園大学	大分医科大学 長崎県立女子短大 西日本工業大学	
昭和60年度 (36)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	宮崎大学 熊本女子大学 鹿児島経済大学	九州工業大学 大分県立芸術短大 西日本工業大学	
昭和61年度 (37)	九州大学	福岡女子短大	国 公 私	熊本大学 北九州大学 長崎総合科学大学	大分大学 福岡社会保育短大 第一薬科大学	
昭和62年度 (38)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	宮崎医科大学 福岡女子大学 九州東海大学	大分医科大学 九州歯科大学 沖縄国際大学	

年次 (回次)	幹事館	監査館	表彰委員館			編集委員館
昭和63年度 (39)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	佐賀医科大学 長崎国際経済大学 福岡大学	琉球大学 鹿児島県立短 大 八幡大	
平成元年度 (40)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	九州芸術工科大学 長崎県立女子短 大 西 南 大	佐賀大学 熊本女子大 中村学園大	
平成2年度 (41)	九州大学	中村学園大学	国 公 私	福岡教育大学 北九州大学 九州産業大	長崎大学 大分県立芸術文化短期大 熊本商科大	九州大学 大分医科大学 福岡女子大 福岡大 福岡女子短期大
平成3年度 (42)	九州大学	福岡大学	国 公 私	九州工業大学 福岡県社会保育短期大 久留米大	鹿児島大 長崎県立大 西日本工業大	九州大学 鹿屋体育大 九州歯科大 中村学園大 筑紫女学園短期大
平成4年度 (43)	九州大学	福岡女子短期大学	国 公 私	宮崎大学 福岡女子大 鹿児島経済大	大分大 九州歯科大 活水女子大	九州大学 福岡教育大 北九州大 九州国際大 東筑紫短期大
平成5年度 (44)	九州大学	福岡女子大学	国 公 私	宮崎医科大学 熊本女子大 活水女子大	大分医科大学 鹿児島県立短期大 鹿児島経済大	九州大学 熊本大 福岡女子大 西南学院大 筑紫女学園短期大
平成6年度 (45)	九州大学	九州芸術工科大学	国 公 私	熊本大 大分県立芸術文化短期大 活水女子大	佐賀医科大学 宮崎公立大 鹿児島経済大	九州大学 宮崎大 福岡県立大 九州産業大 筑紫女学園短期大
平成7年度 (46)	九州大学	九州産業大学	国 公 私	鹿屋体育大学 北九州大学 第一薬科大	琉球大学 長崎県立大 南九州大	九州大学 九州工業大 九州歯科大 久留米大 筑紫女学園短期大
平成8年度 (47)	九州大学	西南学院大学	国 公 私	九州芸術工科大学 福岡女子大 九州東海大	佐賀大学 九州歯科大 熊本学園大	九州大学 大分大 北九州大 九州共立大 西南女学院短期大
平成9年度 (48)	九州大学	福岡教育大学	国 公 私	九州工業大 熊本県立大 九州女子大	宮崎大 鹿児島県立短期大 久留米工業大	九州大学 佐賀大 九州歯科大 福岡大 西南女学院短期大

年次 (回次)	幹事館	副幹事館		監査館	表彰委員館	編集委員館
平成10年度 (49)	九州大学	国 公 私 私短	九州芸術工科大学 福岡女子大学 九州国際大学 中九州短期大学	中村学園大学	福岡教育大学 長崎大学 福岡県立大学 長崎県立女子短期大学 西日本工業大学 筑紫女学園大学	九州大学 佐賀医科大学 福岡女子大学 第一薬科大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成11年度 (50)	九州大学	国 公 私 私短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島経済大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡大学	鹿児島大学 大分県立芸術文化短期大学 別府大学 中九州短期大学	九州大学 佐賀大学 長崎大学 福岡県立大学 熊本工業大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成12年度 (51)	九州大学	国 公 私 私短	九州工業大学 大分県立芸術文化短期大学 鹿児島国際大学 沖縄キリスト教短期大学	福岡女子大学	大分大学 宮崎県立大学 宮崎国際大学 中九州短期大学	九州大学 沖縄国際大学 宮崎医科大学 北九州大学 西南女学院大学 福岡国際大学・ 福岡女子短期大学
平成13年度 (52)	九州大学	国 公 私 私短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡教育大学	宮崎医科大学 北九州市立大学 筑紫女学園大学 沖縄キリスト教短期大学	鹿児島大学 九州歯科大学 西九州大学 活水女子短期大学 九州大学 九州女子大学
平成14年度 (53)	九州大学	国 公 私 私短	福岡教育大学 宮崎公立大学 福岡工業大学 九州大谷短期大学	福岡工業大学	大分医科大学 熊本県立大学 九州情報大学 九州大谷短期大学	琉球大学 福岡県立大学 鹿児島純心女子大学 活水女子短期大学 九州大学 大分大学
平成15年度 (54)	九州大学	国 公 私 私短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	筑紫女学園大学・短期大学	鹿屋体育大学 宮崎県立看護大学 九州ルーテル学院大学 筑紫女学園大学・短期大学	九州工業大学 福岡女子大学 九州看護福祉大学 西南女学院大学・ 短期大学 九州大学 宮崎大学
平成16年度 (55)	九州大学	国 公 私 私短	佐賀大学 北九州市立大学 九州共立大学 筑紫女学園大学・短期大学	西南学院大学	熊本大学 福岡女子大学 志學館大学 東九州女子短期大学	福岡教育大学 九州歯科大学 南九州大学・ 南九州短期大学 西南女学院大学・ 短期大学

年次 (回数)	幹事館	副幹事館		監査館	表彰委員館	編集委員館
平成17年度 (56)	九州大学	国 公 私 私短	長崎大学 熊本県立大学 九州東海大学 鹿児島純心女子短期大学	九州産業大学	琉球大学 沖縄県立大学 西南女学院大学 鹿児島純心女子短期大学	熊本大学 北九州市立大学 西日本工業大学 鹿児島純心女子短期大学
平成18年度 (57)		国 公 私 私短				
平成19年度 (58)		国 公 私 私短				
平成20年度 (59)		国 公 私 私短				
平成21年度 (60)		国 公 私 私短				
平成22年度 (61)		国 公 私 私短				
平成23年度 (62)		国 公 私 私短				

九州地区大学図書館協議会総会当番館一覧

回次	年度	県別	大 学
1	25	福岡	九州大学
2	26	熊本	熊本大学
3	27	長崎	長崎大学
4	28	佐賀	佐賀大学
5	29	鹿児島	鹿児島大学
6	30	宮崎	宮崎大学
7	31	大分	大分大学
8	32	福岡	西南学院大学
9	33	福岡	九州大学
10	34	熊本	熊本大学
11	35	福岡	九州工業大学
12	36	長崎	長崎大学
13	37	福岡	福岡大学
14	38	佐賀	佐賀大学
15	39	福岡	福岡教育大学
16	40	宮崎	宮崎大学
17	41	福岡	八幡大学
18	42	鹿児島	鹿児島大学
19	43	福岡	九州大学
20	44	熊本	熊本商科大学
21	45	福岡	久留米大学
22	46	大分	大分大学
23	47	福岡	北九州大学
24	48	長崎	長崎大学
25	49	福岡	九州産業大学
26	50	佐賀	佐賀大学
		〃	佐賀龍谷短期大学
27	51	沖縄	琉球大学
28	52	福岡	九州大学
29	53	大分	大分大学
30	54	宮崎	宮崎大学
31	55	福岡	九州歯科大学
		〃	福岡女子大学
		〃	福岡県社会保育短期大学
32	56	熊本	熊本女子大学

回次	年度	県別	大 学
33	57	鹿児島	鹿児島大学
		〃	鹿児島県立短期大学
		〃	鹿児島経済大学
34	58	福岡	西日本工業大学
35	59	長崎	長崎大学
36	60	宮崎	宮崎医科大学
		大分	大分県立芸術短期大学
		宮崎	南九州大学
		長崎	純心女子短期大学
37	61	福岡	九州芸術工科大学
38	62	佐賀	佐賀医科大学
39	63	沖縄	琉球大学
40	平成元	福岡	北九州大学
41	2	大分	大分医科大学
42	3	鹿児島	鹿屋体育大学
43	4	福岡	西南学院大学
44	5	熊本	九州東海大学
45	6	宮崎	宮崎産業経営大学
46	7	福岡	九州工業大学
47	8	長崎	長崎大学
48	9	鹿児島	鹿児島経済大学
49	10	福岡	福岡女子大学
50	11	佐賀	佐賀大学
51	12	沖縄	沖縄国際大学
52	13	福岡	九州女子大学
53	14	大分	大分大学
54	15	宮崎	宮崎大学
55	16	福岡	福岡教育大学
56	17	中部	熊本大学
57	18	鹿児島	鹿屋体育大学
58	19	福岡	九州大学
59	20		
60	21		
61	22		
62	23		

編 集 後 記

- 皆様のご協力のおかげで会誌第48号を発行することができました。誠に有り難うございました。
- これからも皆様と一緒にこの協議会誌を良くしていきたいと考えていますので、ますますのご支援くださいますようよろしくお願いいたします。

(平成18年2月事務局K記)

九州地区大学図書館協議会誌 第48号

平成17年2月発行

発 行 福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学附属図書館内
九州地区大学図書館協議会

TEL (092) 642-2324

FAX (092) 642-2330

<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/kyogikai/kyutiku.htm>